

## 參考資料



## 資料1 ①アンケート票（委託訓練担当者用）

### ◇記入のお願い

1. 回答は、本アンケート票に直接ご記入の上、施設の担当者にご提出願います。
2. 設問内容に不明な点がございましたら施設の担当者でとりまとめた上、能力開発研究センター調査研究室に遠慮無くお尋ねください。
3. アンケートは、無記名となっておりますので率直なご回答及びご意見をご記入ください。

調査実施機関 独立行政法人雇用・能力開発機構 職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター

※網掛け部分は調査担当者の記入欄

施設名

担当者

### A あなた自身のことについてお聞かせください。

- 1 あなたの年齢層（平成18年3月現在）に該当する番号に○印を付けてください。

年齢層

20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台
1	2	3	4	5

- 2 あなたの担当した訓練コースの専門分野をお聞きます。  
公共職業訓練（離職者訓練）を受託してから担当した訓練コースの専門分野を選び、いくつでも該当する番号に○を付けてください。

年齢層

機械系	電気・電子系	居住系	情報系	管理・事務系	介護サービス系	その他
1	2	3	4	5	6	7

➔その他を選択された方は、具体的な専門分野を下欄に記入してください。

- 3 公共職業訓練（離職者訓練）に関する担当職務をお聞きます。  
いくつでも該当する番号に○を付けてください。

1. 教育訓練施設の経営者または経営的職務
2. 訓練の指導を担当する講師
3. 訓練全般を管理する管理職
4. 就職支援等、事業所訪問を行う職務
5. 受講生の事務処理に関する職務
6. その他 具体的に

{ }

### B 訓練受講生についてお聞かせください。

- 1 入所時または入所後に再度、受講生の就業意欲、就職先、就労条件等の希望を確認していますか。

1. 個別に面接等で確認している
2. 訓練コースごとに受講生に就職支援策を説明する中で調査票等に記載してもらっている
3. 相談したい者の希望者を募りその中で把握している
4. 訓練を進行する中で必要に応じて把握している
5. 特に行っていない
6. その他 具体的に

{ }

2 昨年と比較して受講生の訓練に対する取組意欲はいかがですか。

	昨年と変わらない	昨年より改善している。	昨年より低下している。
①訓練意欲	1	2	3
②就業意欲	1	2	3

3 現状の受講生の訓練に対する取組意欲、就業意欲はいかがですか。

	全般的に意欲的である	1割弱の受講生に問題がある。	2割～3割の受講生に問題がある。	意欲的ではない者もいるが特に問題はない。
①訓練意欲	1	2	3	4
②就業意欲	1	2	3	4

上記の訓練意欲の回答で「2」、「3」と回答された方にお聞きします。その原因は何だと思えますか。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

1. 指導方法 2. 指導員と受講生とのコミュニケーション不足 3. 訓練機器等の不備 4. 受講生間の問題 5. 受講生個々に保有する職業能力の多様性からカリキュラム内容が受講生に合っていない 6. 相談支援体制の不備 7. 訓練費用が高い 8. 訓練施設的环境が合わない 9. 受講生個々の問題 10. その他 具体的に [ ]
--

4 取組意欲や就業意欲は、訓練によって改善できると思えますか。

	改善できる	ケースバイケースでできる	改善できない
①訓練意欲	1	2	3
②就業意欲	1	2	3

5 受講者は就業先を決めるとき、就労条件など、何を重要視していると思われますか。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

1. 賃金 2. 就業時間 3. 年齢 4. 職場の人間関係 5. 通勤条件 6. 勤務時間 7. 職場の作業環境 8. 職場の人材育成等への意欲 9. 休暇制度 10. 就業形態（正社員、パート等） 11. 企業の規模（知名度） 12. 企業の安定度 13. その他 具体的に [ ]
--

- 6 訓練修了後、未就職になる者の原因としてどのようなことがあげられますか。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

1. 就職意欲の欠如
2. 賃金条件が合わない
3. 求人側が求めている技能・技術の不足
4. 年齢要件が合わない
5. 求人数が少なく選択できない
6. 勤務時間が合わない
7. 通勤できない
8. 訓練修了頃から本人の希望職種を変更した
9. 就業形態（常用雇用（正社員）、パート等）が希望と異なる
10. 入所時から受講した訓練コースの内容と合っていなかった
11. 修了生個々の問題
12. その他 具体的に

{ }

- 7 その他、委託訓練担当者として受講生ニーズや受講生に関して抱えている問題点等がありましたら具体的に記述してください。

{ }

**C 現在担当している離職者訓練コースの運営状況についてお聞かせください。**

- 1 訓練では就職に必要な職業能力を付与していますが、どんな能力を付与すべきと思いますか。いくつでも該当する番号に○を付けてください。

1. 時代に適応した技能・技術（テクニカルスキル）
2. 職業意識・態度・姿勢等（ヒューマン・スキル）
3. 創造性・分析力・問題発見解決能力、判断力等（コンセプチュアル・スキル）
4. 資格取得
5. 実践力（現場実習等）
6. その他 具体的に

{ }

- 2 現在実施されている訓練システムはどのようなものですか。いくつでも該当する番号に○を付けてください。

1. 単純集合型訓練
2. 集合型訓練＋職場実習（デュアルシステムまたは組合せ）
3. 求人セット型訓練
4. 選択型訓練
5. 一部選択型訓練
6. スキル別受講型訓練
7. 二部制（昼、夜間）訓練
8. 夜間訓練
9. その他 具体的に

{ }

- 3 質問1で回答された訓練システムの特長は何ですか、また問題点は何ですか具体的に記述して下さい。

特長：

{ }

問題点：

{ }

4 現状の訓練コースを設定した背景について、高い理由の上位より3つの番号を記載して下さい。

1. 現状の業務内容、設備機器の有効活用のため 2. 在籍している講師の有効活用のため 3. 就職の可能性が高い 4. 経営者等の判断 5. 求職者ニーズ 6. 求人企業等からの要望 7. 求人ニーズの分析結果 8. 修了生の採用企業からの要望 9. 他の訓練機関との調整 10. 雇用・能力開発機構等、公的機関等からの指示・要望 11. その他 具体的に [ ]
---

回 答		
(1)	(2)	(3)

5 入所選考の方法は、何を重要視すべきと思いますか。上位より3つの番号を記載して下さい。

1. 書類選考 2. 面接 3. 適性検査 4. 訓練受講意欲 5. 就職意欲 6. 求職者の保有する知識、技能・技術、資格 7. 受講生の健康状態 8. 定員確保 9. その他 具体的に [ ]
---

回 答		
(1)	(2)	(3)

6 受講者の過去の職歴は就職する際の決め手になっていると思いますか。該当する番号に○印を付けてください。

1. 決め手になっていることが多い 2. 一部の受講生には、決め手となっているといえる 3. 習得した訓練内容が優先している 4. 受講者の職歴なのか訓練で習得した内容なのか、どちらともいえない 5. わからない 6. その他 具体的に [ ]
--

7 受講生へのフォローアップの仕方についてお答えください。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

1. 未習得部分の補習 2. 資格取得のための補習 3. 自習環境の提供 4. 受講生個々に応じた課題学習 5. キャリアコンサルティング 6. 関連職種に関する情報提供等 7. メンタルヘルスケア 8. 特に実施していない 9. その他 具体的に [ ]
---

- 8 修了生へのフォローアップの仕方についてお答えください。  
いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

- |  |
|--|
| 1. 未就職者への就業支援<br>2. 資格取得のための補習<br>3. 修了生へのキャリア相談・支援<br>4. 就職先の仕事に関する技術的アドバイス<br>5. 再就職支援<br>6. 特に実施していない<br>7. その他 具体的に<br>{ } |
|--|

**D 新たな訓練実施方法を構築するための具体的方策についてお聞かせください。**

- 1 社会情勢等で企業の採用状況等は変化していますが、ここ2～3年での変化に対し、離職者訓練にはどのような対応を求められていますか。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

- |  |
|--|
| 1. 訓練職種の変更<br>2. 雇用形態の変化への対応<br>3. 労働条件の変化への対応<br>4. 求人の年齢幅への対応<br>5. 受講生の技能・技術のレベルアップ<br>6. 受講生の実務経験への対応<br>7. 講師の技能・技術の向上<br>8. 訓練機器等の更新<br>9. その他 具体的に<br>{ } |
|--|

- 2 上記の質問で回答された項目について具体的な対応を迫られている内容があれば記述して下さい。

--

- 3 現状の訓練システムを改善するとすれば、どのような方法が考えられますか。  
いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

- |   |
|---|
| 1. 受講生のニーズを重視し、一部選択制を取り入れた訓練システム<br>2. 求人ニーズを重視し、一部選択制を取り入れた訓練システム<br>3. 企業実習を含めた訓練システム<br>4. 採用予定者を訓練受講者に限定した訓練システム<br>5. 累積加算方式（バウチャー）の訓練システム<br>6. 能力開発セミナーを併用した訓練システム<br>7. 合宿制などの集中的訓練システム<br>8. 受講者のスキル別受講可能な訓練システム<br>9. Web等を活用した訓練システム<br>10. 受講生に共通したIT基礎能力等の職業能力など、一定のスキルに到達していない受講生に対するプレ訓練の実施<br>11. その他 具体的に<br>{ } |
|---|

※バウチャー（voucher）とは、利用券や引換券を意味する用語であり、個人を対象とする用途制限のある補助金の一種。利用者の教育の選択権が確保でき、競争によってサービスも良くなるとされている。求職者が自由に教育訓練機関を選択し、科目ごとに単位の認定を受け、その認定された単位数を累積して加算し、その結果について教育課程の修了を認定する方式である。

- 4 上記の質問で回答された項目について具体的な方策、アイデア等があれば記述して下さい。

--

- 5 現状の訓練体制で早期に改善したいと思われることを教えてください。いくつでも該当する番号に○印を付けてください。

- 1. 求人ニーズ等とのミスマッチ
- 2. 講師の過不足
- 3. 訓練機器の更新、充実
- 4. 教材の見直し、改訂
- 5. 訓練内容（カリキュラム等）の見直し
- 6. 講師のスキルアップ
- 7. 受講生との信頼感向上
- 8. 訓練期間
- 9. 訓練費用
- 10. 相談支援体制
- 11. 訓練基準
- 12. 特になし
- 13. その他 具体的に

- 5 上記の質問で回答された中で最も早期に改善が必要なものは何番ですか。

回 答

- E その他、ご意見・ご要望等ございましたら自由にご記入ください。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

### 資料1 ②調査集計結果(別添:WEB一般求職者)

#### 調査概要

項目	概要
調査方法	インターネットによる調査(調査専門業者によるWEBアンケート)。提示、回収ともWEBによる。
調査対象者	調査専門業者が保有するアンケート会員から、転職経験者を抽出し、20～50歳台の各年代が同数の250名、計1,000名となるまで調査を受付。
調査期間	平成18年2月16日～18日(3日間)

#### 回答者(転職経験者)の基本属性

年代別回答者数(SA) (n=1000)

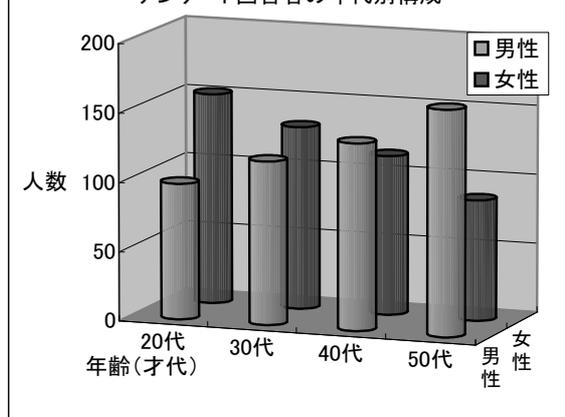
性別	年代	回答者数			
		人数	既婚	未婚	未婚率
男性	20代	98	20	78	79.6%
	30代	118	53	65	55.1%
	40代	135	87	48	35.6%
	50代	163	141	22	13.5%
		514	301	213	41.4%
女性	20代	152	45	107	70.4%
	30代	132	81	51	38.6%
	40代	115	74	41	35.7%
	50代	87	73	14	16.1%
		486	273	213	43.8%

(各年代が250名となるように調査)

地域別回答者数(SA) (n=1000)

地域CD	地域名	人数	男性	女性	計	都道府県
1	北海道・東北地区	78	30	48	44	北海道
					3	青森県
					2	岩手県
					12	宮城県
					2	秋田県
					6	山形県
2	関東地区	499	280	219	9	茨城県
					9	栃木県
					6	群馬県
					74	埼玉県
					52	千葉県
					240	東京都
					109	神奈川県
					26	新潟県
					6	富山県
					16	石川県
3	北陸・甲信越地区	85	46	39	6	福井県
					5	山梨県
					26	長野県
					6	岐阜県
					14	静岡県
4	東海地区	72	36	36	42	愛知県
					10	三重県
					0	滋賀県
					22	京都府
5	近畿地区	140	62	78	74	大阪府
					36	兵庫県
					6	奈良県
					2	和歌山県
					2	鳥取県
6	中国地区	40	18	22	3	島根県
					10	岡山県
					18	広島県
					7	山口県
					6	徳島県
7	四国地区	31	16	15	9	香川県
					10	愛媛県
					6	高知県
					28	福岡県
8	九州・沖縄地区	55	26	29	1	佐賀県
					3	長崎県
					9	熊本県
					4	大分県
					5	宮崎県
					3	鹿児島県
					2	沖縄県
						人数

アンケート回答者の年代別構成



転職経験者に対する調査結果詳細

Q1 「転職先を見つけた手段・情報」とそのクロス集計(MA) (n=1000)

		『「転職を見つけた」手段・情報』として、主選択肢(左)の他に、複数選択した回答者の割合					
「転職を見つけた」手段・情報など	人数 (補正前)	①	②	③	④	⑤	人数 (補正後)
① ハローワーク、人材銀行など公的な機関の求人情報	401		190 47.4%	67 16.7%	67 16.7%	7 1.7%	402
② (新聞、雑誌、インターネットの求人サイトなど)求人情報	462	190 41.1%		91 19.7%	51 11.0%	10 2.2%	474
③ 求人募集をしている企業のホームページ	136	67 49.3%	91 66.9%		21 15.4%	5 3.7%	136
④ 知人からの紹介	273	67 24.5%	51 18.7%	21 7.7%		11 4.0%	282
⑤ ヘッドハンティング	54	7 13.0%	10 18.5%	5 9.3%	11 20.4%		54
⑥ その他	83						61

「転職先を見つけた手段・情報」としてどのような媒体を利用するかを表したもので、複数回答を可能としている。この表では、たとえば①「ハローワークを求人情報の検索手段」としている人の47.4%は求人情報誌なども参考にしていることがわかり、「知人からの紹介」や「ヘッドハンティング」等が期待できる場合は、「公的な求人情報」や「求人誌、求人サイトからの情報」はあまり利用していない事がわかる。

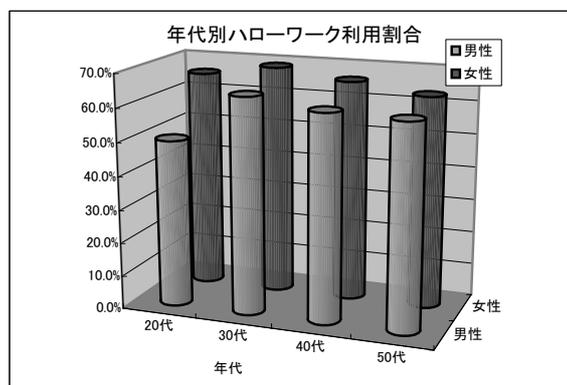
Q1-1 「転職先を見つけた手段・情報」に対する「その他」の回答について

創業、起業など	15
人材派遣会社の仲介	14
再就職支援会社	12
知人の紹介 =④	9
求人情報誌 =②	9
会社の斡旋	7
独力	6
店頭掲示板など	4
専門学校の紹介	2
新聞広告・チラシ =②	2
インターネット =②	1
職安 =①	1
意味不明	1

注： 「その他」についての具体的記述は右にあるとおりであるが、設問の選択肢と同じ回答を自由記述している場合があったので、○数字を付けたものを、Q1の選択肢と同義であるとし、上表の「転職先を見つけた手段・情報」に対して、単純に集計したもの(左上)と、補正して集計したもの(右上)を示した。

Q2 転職時のハローワーク利用割合の性別と、年代別クロス集計 (SA) (n=1000)

性別	年代	人数	ハローワークの利用経験	
			人数	割合
男性	20代	98	49	50.0%
	30代	118	76	64.4%
	40代	135	83	61.5%
	50代	163	99	60.7%
	人数	514	307	59.7%
女性	20代	152	100	65.8%
	30代	132	91	68.9%
	40代	115	76	66.1%
	50代	87	55	63.2%
	人数	486	322	66.3%



Q2-1 転職時のハローワーク利用割合の性別、地域別クロス集計 (SA) (n=1000)

地域CD	地域名	総計			男性			女性		
		人数	利用者	利用率	人数	利用者	利用率	人数	利用者	利用率
1	北海道・東北地区	78	58	74.4%	30	19	63.3%	48	39	81.3%
2	関東地区	499	270	54.1%	280	146	52.1%	219	124	56.6%
3	北陸・甲信越地区	85	71	83.5%	46	37	80.4%	39	34	87.2%
4	東海地区	72	50	69.4%	36	23	63.9%	36	27	75.0%
5	近畿地区	140	85	60.7%	62	37	59.7%	78	48	61.5%
6	中国地区	40	30	75.0%	18	16	88.9%	22	14	63.6%
7	四国地区	31	25	80.6%	16	14	87.5%	15	11	73.3%
8	九州・沖縄地区	55	40	72.7%	26	15	57.7%	29	25	86.2%
	全国	1000	629	62.9%	514	307	59.7%	486	322	66.3%

この表は、地区ごとのハローワーク利用者割合を表した表で、大都市圏を抱える地区ほどハローワークの利用率が低く、女性よりも男性のほうが利用率が低いことがわかる。

Q3 ハローワーク利用経験者に対する利用目的と、そのクロス集計 (MA) (n=629)

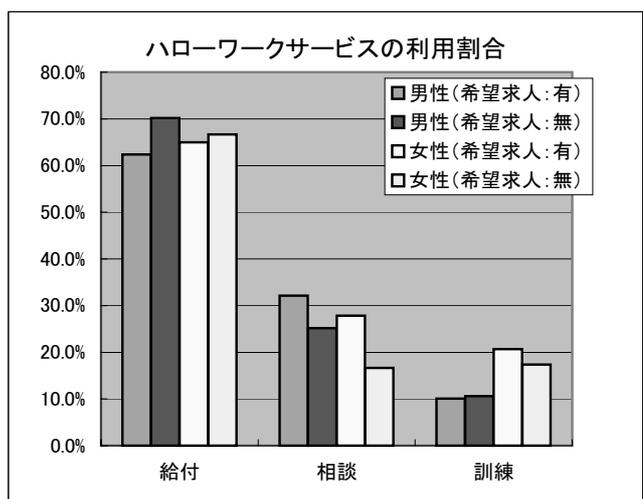
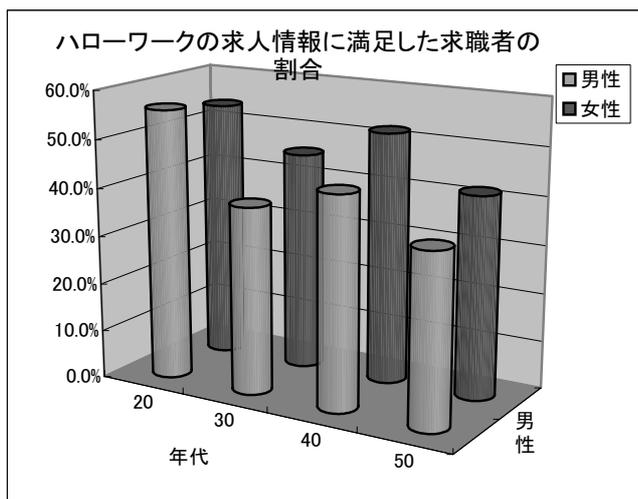
ハローワークの利用目的	人数	「ハローワークの利用目的」として、左選択肢の他に利用するハローワークのサービス			
		①	②	③	④
① 失業給付を受けるため	443		361	122	80
			81.5%	27.5%	18.1%
② 求人情報を検索するため	544	361		136	81
		66.4%		25.0%	14.9%
③ 職業相談を受けるため	151	122	136		44
		80.8%	90.1%		29.1%
④ 職業訓練を受けるため	86	80	81	44	
		93.0%	94.2%	51.2%	

この表はハローワークを利用する目的を聞いたもので、各目的毎の関連性を表したものである。  
 ・例えば、利用目的の総数から見ると「求人情報を検索する」こととなっているが、①および②の目的に対する従目的の割合(①失業給付に対する従②=81.5%、②求人情報に対する従①=66.4%)からも、「求人情報検索」はハローワークの大きな役割として認識されている。

Q4 ハローワーク利用に占める年代別求人検索者とその検索結果に対する満足度のクロス集計(SA) (n=629)

性別	年代	総利用者数	うち、求人検索利用		求人検索の結果希望の求人があった		希望求人があった者がハローワークの別サービスを利用する人数と割合			求人検索の結果希望の求人がなかった		希望求人なかった者がハローワークの別サービスを利用する人数と割合		
			人数	割合	人数	割合	給付	相談	訓練	人数	割合	給付	相談	訓練
男	20	49	41	83.7%	23	56.1%	8	5	1	18	43.9%	6	3	2
							34.8%	21.7%	4.3%			33.3%	16.7%	11.1%
	30	76	62	81.6%	24	38.7%	16	8	3	38	61.3%	27	10	3
							66.7%	33.3%	12.5%			71.1%	26.3%	7.9%
	40	83	73	88.0%	32	43.8%	20	10	1	41	56.2%	29	9	5
							62.5%	31.3%	3.1%			70.7%	22.0%	12.2%
	50	99	84	84.8%	30	35.7%	24	12	6	54	64.3%	44	16	6
							80.0%	40.0%	20.0%			81.5%	29.6%	11.1%
	人数	307	260	84.7%	109	41.9%	68	35	11	151	58.1%	106	38	16
							62.4%	32.1%	10.1%			70.2%	25.2%	10.6%
女	20	100	89	89.0%	48	53.9%	34	12	7	41	46.1%	25	7	8
							70.8%	25.0%	14.6%			61.0%	17.1%	19.5%
	30	91	79	86.8%	36	45.6%	26	7	6	43	54.4%	32	7	7
							72.2%	19.4%	16.7%			74.4%	16.3%	16.3%
	40	76	73	96.1%	38	52.1%	23	11	10	35	47.9%	24	7	6
							60.5%	28.9%	26.3%			68.6%	20.0%	17.1%
	50	55	43	78.2%	18	41.9%	8	9	6	25	58.1%	15	3	4
							44.4%	50.0%	33.3%			60.0%	12.0%	16.0%
	人数	322	284	88.2%	140	49.3%	91	39	29	144	50.7%	96	24	25
							65.0%	27.9%	20.7%			66.7%	16.7%	17.4%
	人数	629	544	86.5%	249	45.8%	159	74	40	295	54.2%	202	62	41
							63.9%	29.7%	16.1%			68.5%	21.0%	13.9%

この表は、性別、年代別の「ハローワークにある求人情報」への合致度を示したもので、希望就業先の有無により、ハローワークのどのようなサービスを受けたかを表している。



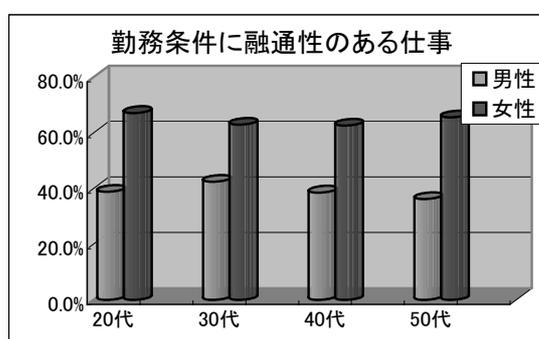
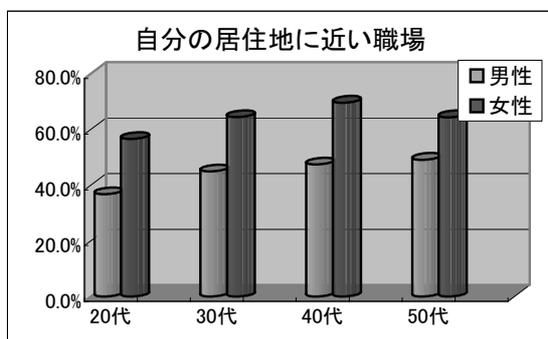
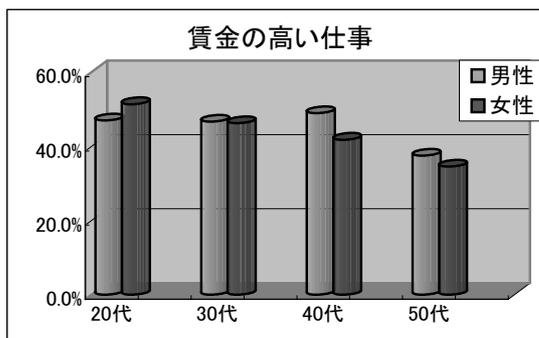
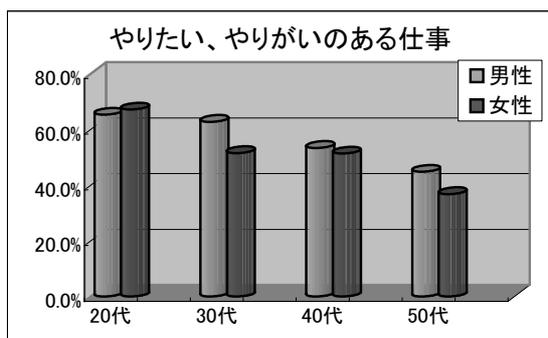
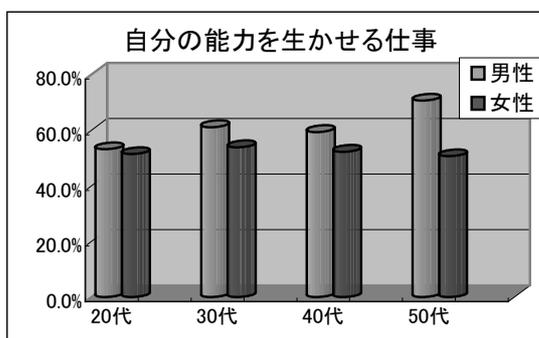
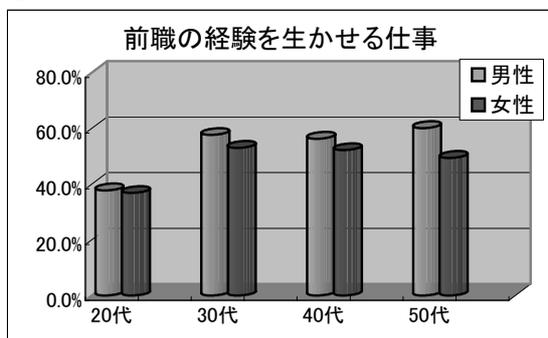
Q5 転職先を選ぶ基準と、性別、年代別の転職基準のクロス集計(MA) (n=1000)

転職先を選ぶ基準	人数	男性					女性				
		年代 人数	20代	30代	40代	50代	年代 人数	20代	30代	40代	50代
			98	118	135	163		152	132	115	87
前職の経験を生かせる仕事	508	279	37	68	76	98	229	56	70	60	43
		54.3%	37.8%	57.6%	56.3%	60.1%	57.4%	36.8%	53.0%	52.2%	49.4%
自分の能力を生かせる仕事	572	319	52	72	80	115	253	78	71	60	44
		62.1%	53.1%	61.0%	59.3%	70.6%	65.6%	51.3%	53.8%	52.2%	50.6%
やりたい、やりがいのある仕事	544	283	64	74	72	73	261	102	68	59	32
		55.1%	65.3%	62.7%	53.3%	44.8%	58.2%	67.1%	51.5%	51.3%	36.8%
賃金の高い仕事	445	228	46	55	66	61	217	78	61	48	30
		44.4%	46.9%	46.6%	48.9%	37.4%	46.9%	51.3%	46.2%	41.7%	34.5%
自分の居住地に近い職場	540	233	36	53	64	80	307	86	85	80	56
		45.3%	36.7%	44.9%	47.4%	49.1%	47.9%	56.6%	64.4%	69.6%	64.4%
勤務条件(時間、曜日など)に融通性のある仕事	513	199	38	50	52	59	314	102	83	72	57
		38.7%	38.8%	42.4%	38.5%	36.2%	40.9%	67.1%	62.9%	62.6%	65.5%

この表は、回答者が持つそれぞれの「転職先を選ぶ基準」を、性別、年代別に表したものである。  
(回答数下の%は、回答者数を対象(性別・年代)で割っている。)

転職先を選ぶ基準については、年代、性別によって以下の特徴がある。

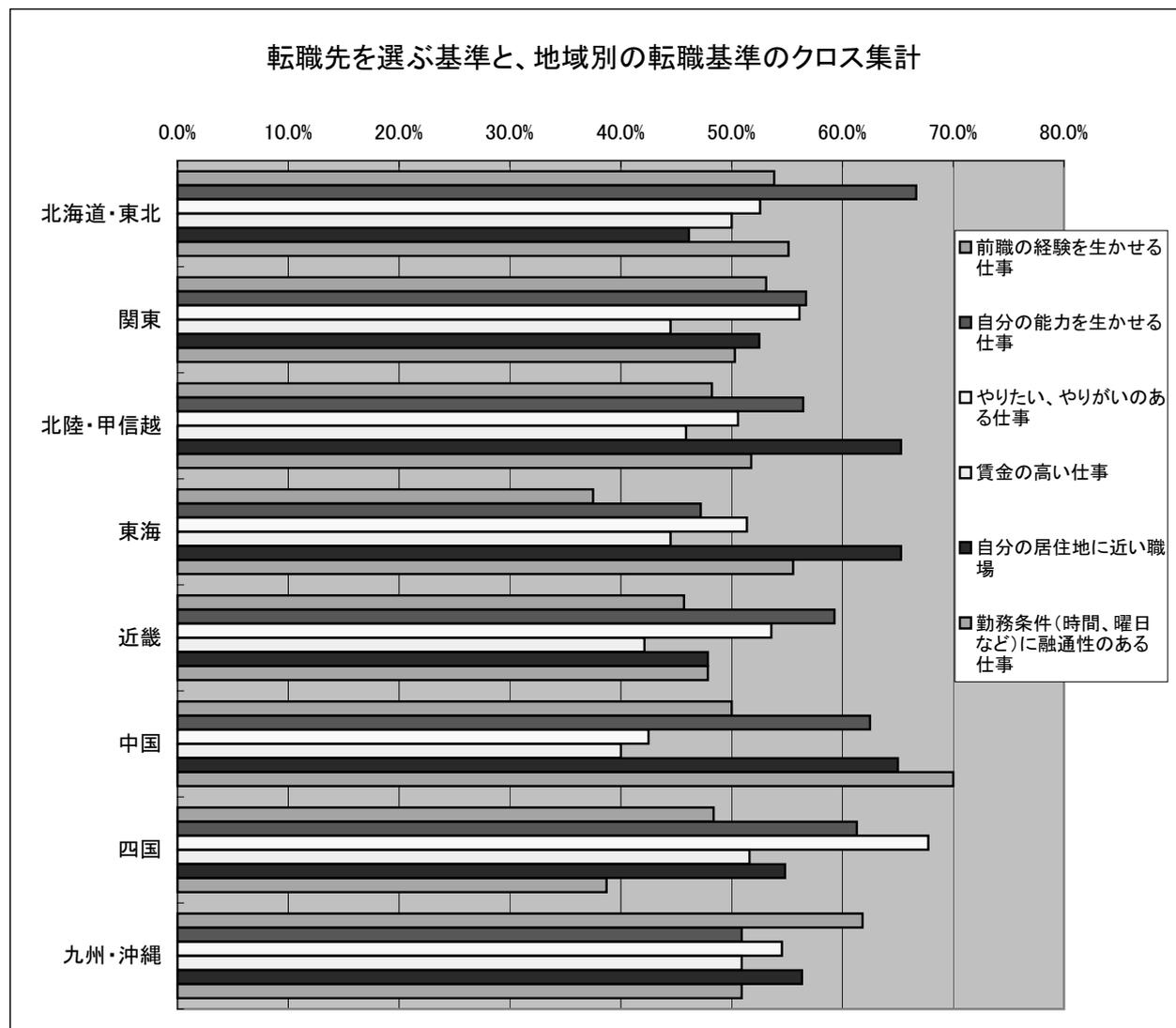
・若い世代ほど「やりたい、やりがいのある仕事」を望み、年代が進むにつれ「前職の経験を生かせる仕事」を望んでいる。



Q5-1 転職先を選ぶ基準と、地域別のクロス集計(MA) (n=1000)

転職先を選ぶ基準	人数	北海道・東北地区	関東地区	北陸・甲信越地区	東海地区	近畿地区	中国地区	四国地区	九州・沖縄地区
		78	499	85	72	140	40	31	55
前職の経験を生かせる仕事	508	42	265	41	27	64	20	15	34
		53.8%	53.1%	48.2%	37.5%	45.7%	50.0%	48.4%	61.8%
自分の能力を生かせる仕事	572	52	283	48	34	83	25	19	28
		66.7%	56.7%	56.5%	47.2%	59.3%	62.5%	61.3%	50.9%
やりたい、やりがいのある仕事	544	41	280	43	37	75	17	21	30
		52.6%	56.1%	50.6%	51.4%	53.6%	42.5%	67.7%	54.5%
賃金の高い仕事	445	39	222	39	26	59	16	16	28
		50.0%	44.5%	45.9%	36.1%	42.1%	40.0%	51.6%	50.9%
自分の居住地に近い職場	540	36	262	54	47	67	26	17	31
		46.2%	52.5%	63.5%	65.3%	47.9%	65.0%	54.8%	56.4%
勤務条件(時間、曜日など)に融通性のある仕事	513	43	251	44	40	67	28	12	28
		55.1%	50.3%	51.8%	55.6%	47.9%	70.0%	38.7%	50.9%

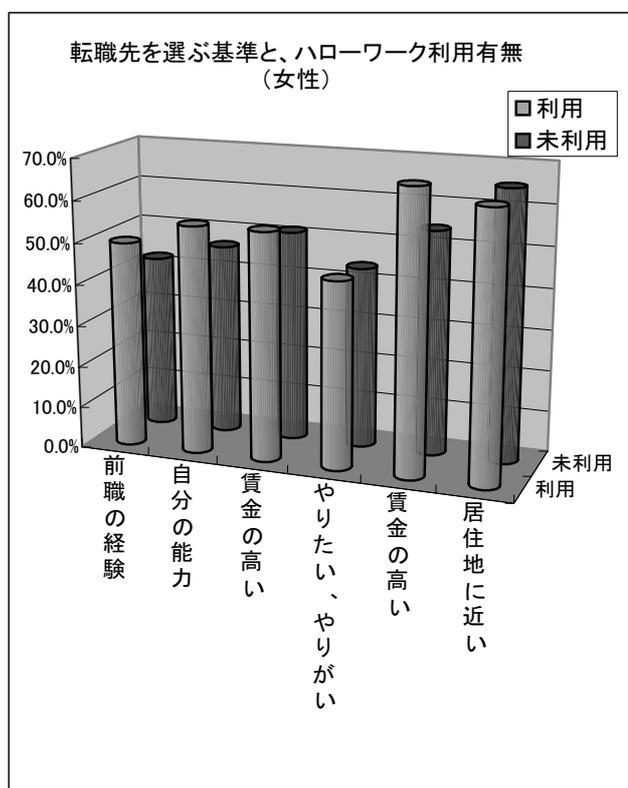
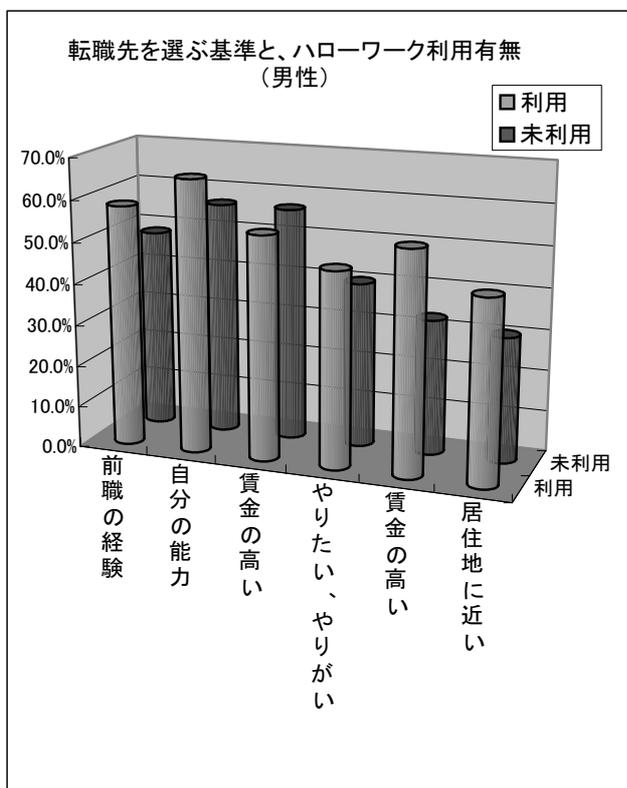
この表は、回答者が持つ「転職先を選ぶ基準」を、地区別に表したものである。



Q5-2 転職先を選ぶ基準と、ハローワーク利用有無のクロス集計(男女別)(MA)(n=1000)

転職先を選ぶ基準	ハローワーク利用有無 人数	男性		女性	
		利用	未利用	利用	未利用
		人数	307	207	322
前職の経験を生かせる仕事	508	179 58.3%	100 48.3%	160 49.7%	69 42.1%
自分の能力を生かせる仕事	572	202 65.8%	117 56.5%	177 55.0%	76 46.3%
やりたい、やりがいのある仕事	544	166 54.1%	117 56.5%	177 55.0%	84 51.2%
賃金の高い仕事	445	145 47.2%	83 40.1%	145 45.0%	72 43.9%
自分の居住地に近い職場	540	165 53.7%	68 32.9%	218 67.7%	89 54.3%
勤務条件(時間、曜日など)に融通性のある仕事	513	136 44.3%	63 30.4%	207 64.3%	107 65.2%

この表は、回答者が持つ「転職先を選ぶ基準」を、「ハローワーク利用の有無」に着目し、性別に表したものである。性別を問わず「自分の経験や能力を生かす仕事」や「賃金の高い仕事」、「自分の居住地に近い仕事」、「勤務条件のあう仕事」などの希望に対し、様々な求人情報から比較検討することができる公的サービスとして、ハローワークは広く認知されている。



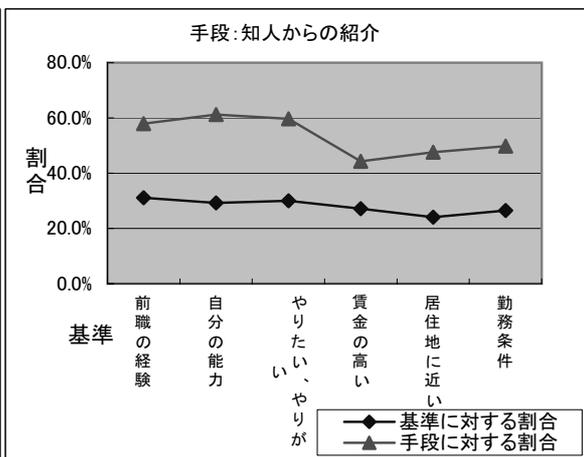
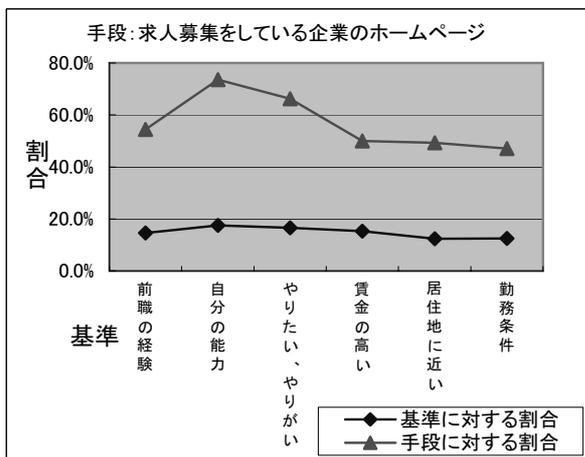
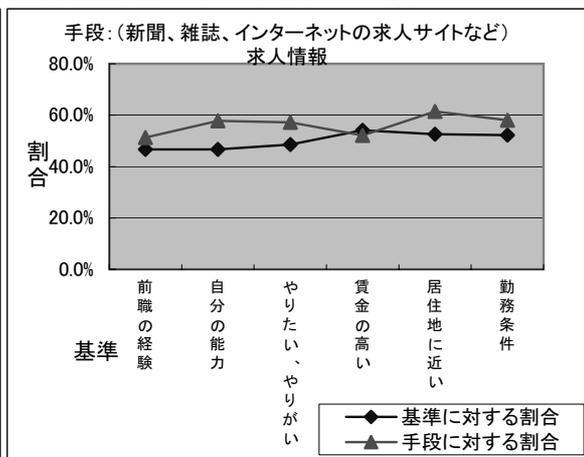
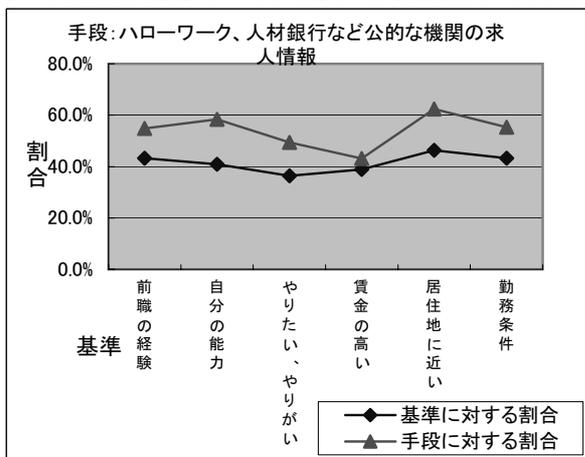
Q5-3 転職先を選ぶ基準と、転職先を見つけた手段のクロス集計(地域別)(MA) (n=1000)

転職先を選ぶ基準	手段	ハローワーク、人材銀行など公的な機関の求人情報		(新聞、雑誌、インターネットの求人サイトなど)求人情報		求人募集をしている企業のホームページ		知人からの紹介	
		人数							
前職の経験を生かせる仕事	508	401	220	462	237	136	74	273	158
			43.3%	54.9%	46.7%	51.3%	14.6%	54.4%	31.1%
自分の能力を生かせる仕事	572	234	234	267	267	100	100	167	167
			40.9%	58.4%	46.7%	57.8%	17.5%	73.5%	29.2%
やりたい、やりがいのある仕事	544	198	198	264	264	90	90	163	163
			36.4%	49.4%	48.5%	57.1%	16.5%	66.2%	30.0%
賃金の高い仕事	445	173	173	241	241	68	68	121	121
			38.9%	43.1%	54.2%	52.2%	15.3%	50.0%	27.2%
自分の居住地に近い職場	540	250	250	284	284	67	67	130	130
			46.3%	62.3%	52.6%	61.5%	12.4%	49.3%	24.1%
勤務条件(時間、曜日など)に融通性のある仕事	513	222	222	268	268	64	64	136	136
			43.3%	55.4%	52.2%	58.0%	12.5%	47.1%	26.5%

例	y
x	a
	=a/x    =a/y

|| 基準に対する割合  
|| 手段に対する割合

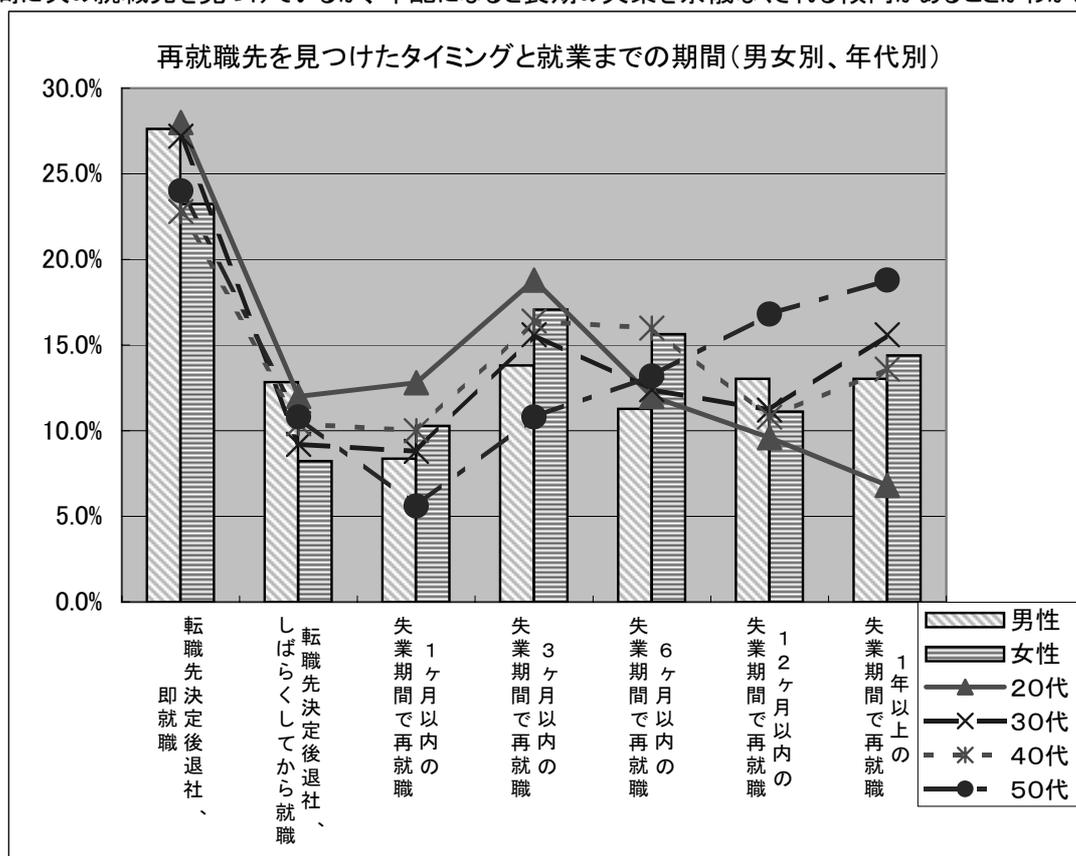
この表は、回答者が持つ「転職先を選ぶ基準」と、「転職先を見つけるための手段」の相関を表したものである。新聞や求人誌などの情報は公的な機関の情報よりも、記載できる内容が自由な分、「やりがい」が易く見つけやすいと期待され、企業のホームページなどはより記述の自由度が高いため、「やりがい」の他に「自分の能力」とのマッチングも期待されやすい。また、それぞれの求人を選んだ手段に対する満足度はおおむね6割前後となっているが、最も一般的な転職先の見つけ方は、新聞、雑誌等の求人誌、公的機関、知人からの紹介、企業ホームページとなっている。



Q6 再就職先を見つけたタイミングと就業までの期間(男女別、年代別)(SA) (n=1000)

転職までのタイミング	人数	男性	女性	20代	30代	40代	50代
	1000	514	486	250	250	250	250
失業期間を経ずに、すぐ転職した	255	142	113	70	68	57	60
	25.5%	27.6%	23.3%	28.0%	27.2%	22.8%	24.0%
就業中に次の就職先を見つけ、充電期間を経て再就職した	106	66	40	30	23	26	27
	10.6%	12.8%	8.2%	12.0%	9.2%	10.4%	10.8%
失業後に就職先を見つけ、失業期間1ヶ月以内で再就職した	93	43	50	32	22	25	14
	9.3%	8.4%	10.3%	12.8%	8.8%	10.0%	5.6%
失業後に就職先を見つけ、失業期間3ヶ月以内で再就職した	154	71	83	47	39	41	27
	15.4%	13.8%	17.1%	18.8%	15.6%	16.4%	10.8%
失業後に就職先を見つけ、失業期間6ヶ月以内で再就職した	134	58	76	30	31	40	33
	13.4%	11.3%	15.6%	12.0%	12.4%	16.0%	13.2%
失業後に就職先を見つけ、失業期間1年以内で再就職した	121	67	54	24	28	27	42
	12.1%	13.0%	11.1%	9.6%	11.2%	10.8%	16.8%
失業後に就職先を見つけ、失業期間1年以上で再就職した	137	67	70	17	39	34	47
	13.7%	13.0%	14.4%	6.8%	15.6%	13.6%	18.8%

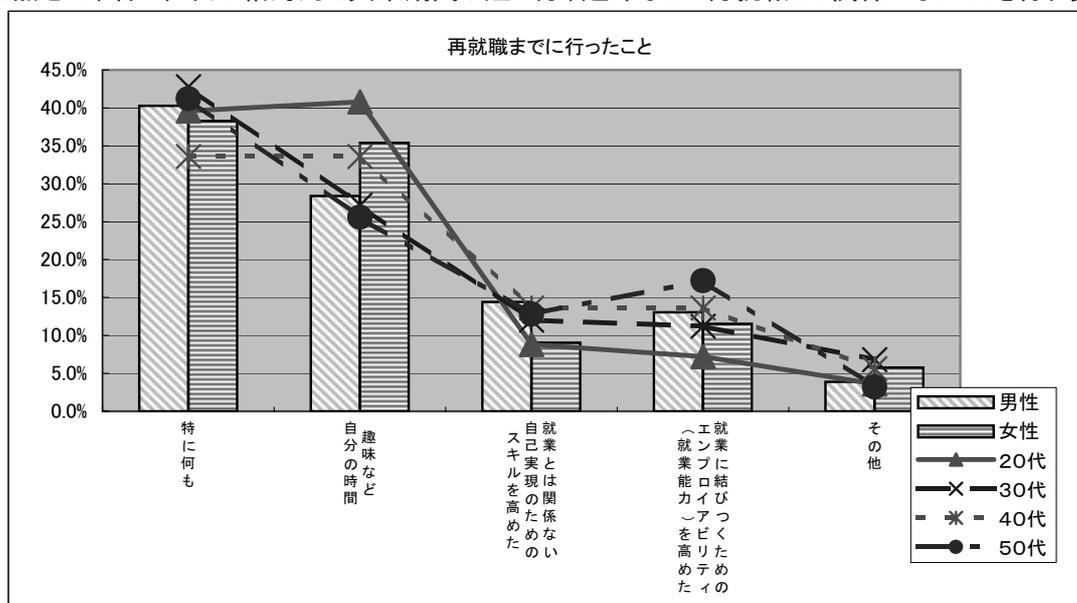
この表は、転職に際しどれぐらいの期間を置いたのかを、性別、および年代別に表したものである。男性は女性に比べ、転職前に再就職先を見つけている場合が多く、また、若い世代ほど失業期間が比較的短い間に次の就職先を見つけているが、年配になると長期の失業を余儀なくされる傾向があることがわかる。



Q7 再就職までに行ったこと(男女別、年代別)(SA) (n=1000)

再就職までに行ったこと	人数	男性	女性	20代	30代	40代	50代
		1000	514	486	250	250	250
特に何もしていない	393	207	186	99	107	84	103
	39.3%	40.3%	38.3%	39.6%	42.8%	33.6%	41.2%
趣味など自分の時間に費やした	318	146	172	102	68	84	64
	31.8%	28.4%	35.4%	40.8%	27.2%	33.6%	25.6%
就業に直接結びつかない自己実現のためスキルを高めることを行った	118	74	44	22	30	34	32
	11.8%	14.4%	9.1%	8.8%	12.0%	13.6%	12.8%
就業に結びつくためエンプロイアビリティ(就業能力)を高めることを行った	123	67	56	18	28	34	43
	12.3%	13.0%	11.5%	7.2%	11.2%	13.6%	17.2%
その他	48	20	28	9	17	14	8
	4.8%	3.9%	5.8%	3.6%	6.8%	5.6%	3.2%

この表は、再就職までの期間にどのようなことを行ったか、性別、および年代別に表したものである。年配の世代は一旦失業すると失業期間が長期になる割合が高いため、失業期間中に再就職のためのスキル向上に熱心で、若い世代は相対的に失業期間が短い分、趣味などの再就職とは関係のないことを行う場合が多い。



Q7-1 再就職までに行ったこと(その他の回答)

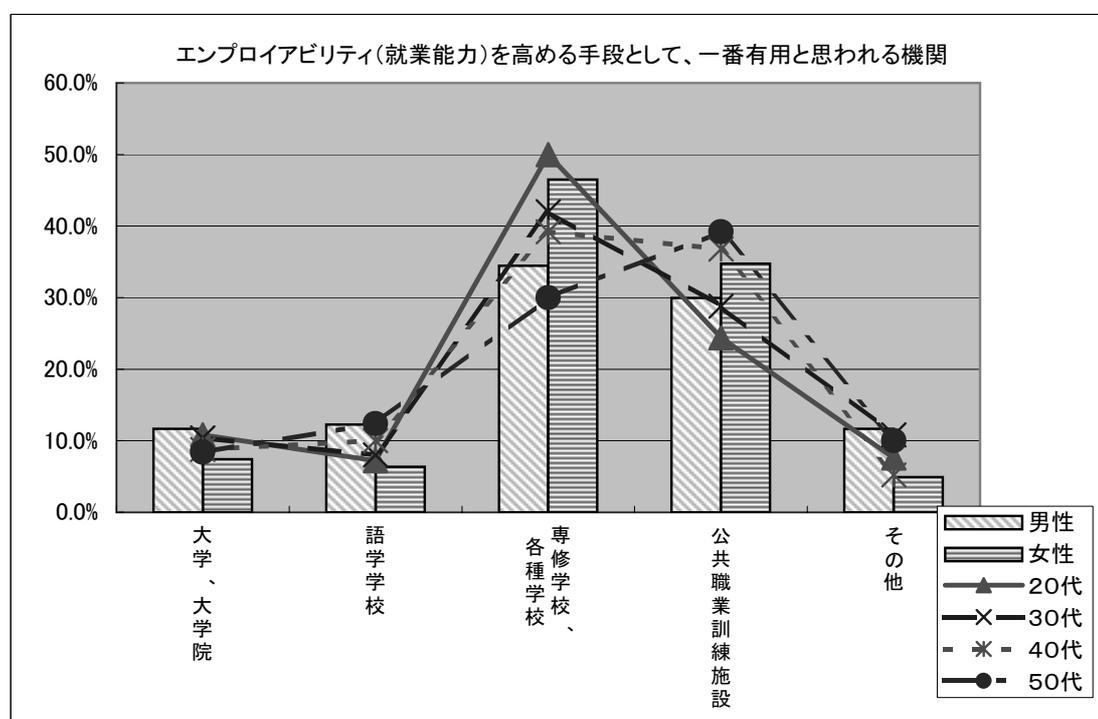
その他の回答	人数	回答例
アルバイト	11	生活費を稼ぐためにアルバイトをした、株式会社レイダー・・・等
資格取得	7	国家資格取得の為に勉強、資格取得・・・等
出産、育児、介護	5	出産・育児、子育て、親の介護・・・等
転居、結婚など	5	結婚、夫の転勤に伴い引越をして落ち着くのに時間を要した・・・等
病気療養	5	病気のため療養していた、体調を崩したので、実家でゆっくりしていた・・・等
勉学、留学	4	受験勉強、論文執筆、留学・・・等
起業	3	起業の準備、開業準備の手伝い・・・等
就職活動	3	履歴書の送付、あいさつ回りなどの準備・・・等
ボランティア	1	地域ボランティア
不適切回答	4	転職はしていない、海外旅行(=趣味)、職業訓練(=就業能力向上)
合計	48	

Q8 エンployアビリティ(就業能力)を高める手段として、一番有用と思われる機関について(SA) (n=1000)

エンployアビリティ(就業能力)を高める、一番有用と思われる機関	人数	男性	女性	20代	30代	40代	50代
	1000	514	486	250	250	250	250
大学、大学院	96	60 11.7%	36 7.4%	27 10.8%	26 10.4%	22 8.8%	21 8.4%
語学学校	94	63 12.3%	31 6.4%	18 7.2%	20 8.0%	25 10.0%	31 12.4%
専修学校、各種学校	403	177 34.4%	226 46.5%	125 50.0%	105 42.0%	98 39.2%	75 30.0%
公共職業訓練施設	323	154 30.0%	169 34.8%	61 24.4%	72 28.8%	92 36.8%	98 39.2%
その他(具体的に)	84	60 11.7%	24 4.9%	19 7.6%	27 10.8%	13 5.2%	25 10.0%

この表は、エンployアビリティ(就業能力)を高めるための手段として、一番有用と思われる機関について、性別、および年代別に表したものである。

専修学校、各種学校と公共職業訓練施設については、共にエンployアビリティ(就業能力)を高めることができる機関として、相対的に認知されていることがわかるが、若年層は「専修学校、各種学校」、年配層は「公共職業訓練施設」という認識がある。



Q8-1 エンployアビリティ(就業能力)を高める手段(その他の回答)

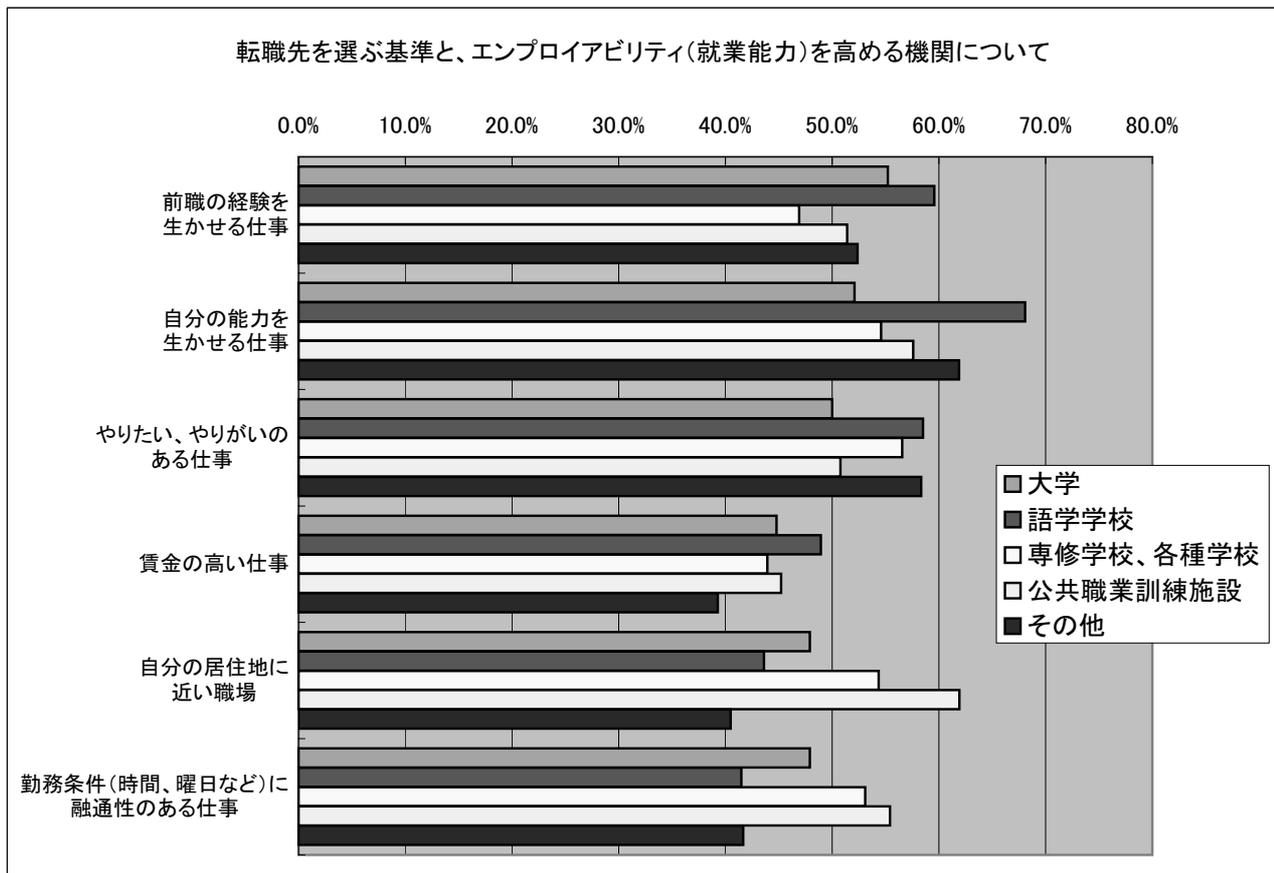
その他の回答	人数	回答例
個人の主体性に資するもの	27	やる気、起業という選択肢もある、独学、資格取得・・・等
実務経験など	25	実社会での経験、多くの経験、学校ではないもの・・・等
これといったものはない	20	具体的にこれというものは無い、人によってさまざま・・・等
その他の教育機関	8	専門的なことを教える私的な教育機関、WEBスクール・・・等
インターネットを利用した学習など	4	インターネット
合計	84	

Q8-2 転職先を選ぶ基準と、エンployアビリティ(就業能力)を高める機関についてのクロス集計(MA) (n=1000)

Q5で選択した、 転職先を選ぶ基準	Q8で選択した、 就業能力を高め られると思う機関	大学	語学学校	専修学 校、各種 学校	公共職業 訓練施設	その他
	人数					
前職の経験を生かせる仕事	508	96 55.2%	94 59.6%	403 46.9%	323 51.4%	84 52.4%
自分の能力を生かせる仕事	572	50 52.1%	64 68.1%	220 54.6%	186 57.6%	52 61.9%
やりたい、やりがいのある仕事	544	48 50.0%	55 58.5%	228 56.6%	164 50.8%	49 58.3%
賃金の高い仕事	445	43 44.8%	46 48.9%	177 43.9%	146 45.2%	33 39.3%
自分の居住地に近い職場	540	46 47.9%	41 43.6%	219 54.3%	200 61.9%	34 40.5%
勤務条件(時間、曜日など)に 融通性のある仕事	513	46 47.9%	39 41.5%	214 53.1%	179 55.4%	35 41.7%

この表は、回答者持つ「転職先を選ぶ」という「基準」に対し、「エンployアビリティ(就業能力)を高める」ためにはどのような教育機関を選んだかというクロス集計である。

- 例えば横軸で考察した場合、「自分の能力を生かせる仕事」を転職先を選ぶ基準として選んでいるものは、自分の能力を更に高めることに有効と思われる機関よりも、プラスアルファとしての能力(語学など)を身につけることが、自分の能力を発揮するために必要とすることがわかる。
- また縦軸から読み取れることは、例えば「公共職業訓練」の場合、「転職をする」と言う動機で利用している者の意識の中には、「自分の家に近い職場」であるとか、職業訓練による能力付与の結果で、次の職場を探す行動をしていることが読み取れる。



- Q15 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料(n=155)  
 Q17 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料の妥当性(n=155)  
 各職業訓練機関の訓練に対する受講料と内容の妥当性についてのクロス集計

期間と 受講料	公共 職業訓練施設					専修学校・ 各種学校					大学・大学院					NPO法人					人数	
1万未満	40					9					2					1					52	
1万～5万未満		33					13					2					4				52	
5万～10万未満			5					4					0					2			11	
10万～25万未満				7					7					1					1		16	
25万～50万未満					3					11					0					1	15	
50万～100万未満																				0	2	
100万以上																					7	
高い	1	5	3	3	2	1	2	3	4	6	2	5	1	1				1	2	1	1	44
妥当	23	15	2	3		5	10	1	3	4		1	2	1				1	2		1	74
安い	16	13		1	1	3	1			1								1				37

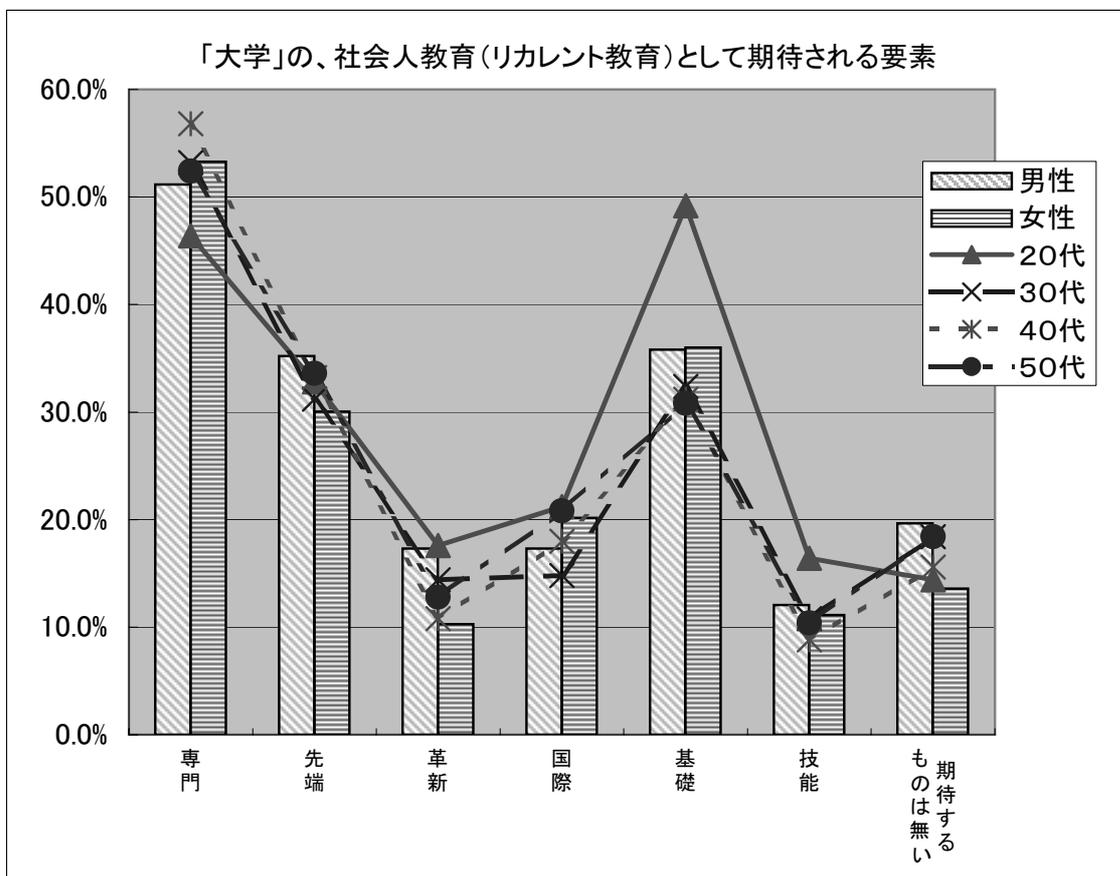
- Q18 受講した職業訓練の分類(n=166)  
 Q19 受講した職業訓練の効果(n=166)  
 Q20 受講した職業訓練の形式(複数回答)(n=166)  
 Q21 あなたが受講された職業訓練の形式毎の魅力についてお答えください。  
 Q21\_1 本人の志向に合わせた訓練(n=30)  
 Q21\_2 思考特性毎にグループ分けされた訓練(n=12)  
 Q21\_3 背景の異なる人たちが集まった訓練(n=60)  
 Q21\_4 本人の習熟度に合わせた訓練(n=23)  
 Q21\_5 習熟度毎にグループ分けされた訓練(n=14)  
 Q21\_6 高度・最先端な内容の訓練(n=13)  
 Q21\_7 高度・最先端機器を使用した訓練(n=17)  
 Q21\_8 基本事項を繰り返し学習する訓練(n=57)  
 Q21\_9 講師や他人に干渉されない訓練(n=4)  
 Q21\_10 理解度を確認しながら進める訓練(n=47)  
 Q21\_11 その他(n=1)

※ Q18からQ21にかけての職業訓練の分類及び効果、訓練の形式についての回答結果に対する分析は、回答数が少数のため省略する。

Q9-1 「大学」の、社会人教育(リカレント教育)として期待される要素について(MA) (n=1000)

大学	人数 (MA)	男性	女性	20代	30代	40代	50代
に期待される要素	1000	514	486	250	250	250	250
専門	522	263	259	116	133	142	131
	52.2%	51.2%	53.3%	46.4%	53.2%	56.8%	52.4%
先端	327	181	146	82	78	83	84
	32.7%	35.2%	30.0%	32.8%	31.2%	33.2%	33.6%
革新	139	89	50	44	36	27	32
	13.9%	17.3%	10.3%	17.6%	14.4%	10.8%	12.8%
国際	187	89	98	53	37	45	52
	18.7%	17.3%	20.2%	21.2%	14.8%	18.0%	20.8%
基礎	359	184	175	123	81	78	77
	35.9%	35.8%	36.0%	49.2%	32.4%	31.2%	30.8%
技能	116	62	54	41	27	22	26
	11.6%	12.1%	11.1%	16.4%	10.8%	8.8%	10.4%
期待するものは 無い	167	101	66	36	46	39	46
	16.7%	19.6%	13.6%	14.4%	18.4%	15.6%	18.4%
のべ回答数	1817	969	848	495	438	436	448

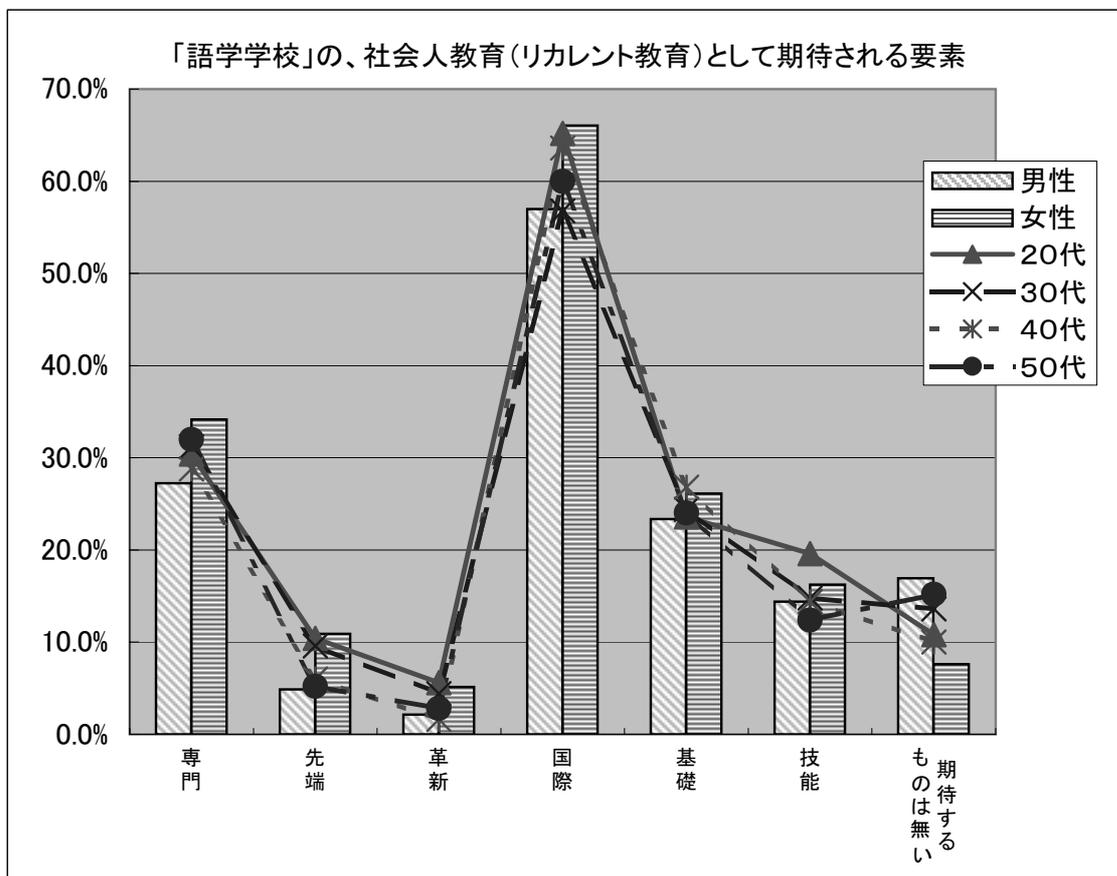
この表は、「エンployアビリティ(就業能力)を高める」機関として用意した選択肢「大学」に対し、本来はどのような要素を求めると性別、年代別に表したものである。



Q9-2 「語学学校」の、社会人教育(リカレント教育)として期待される要素について(MA) (n=1000)

語学学校	人数 (MA)	男性	女性	20代	30代	40代	50代
に期待される要素	1000	514	486	250	250	250	250
専門	306 30.6%	140 27.2%	166 34.2%	76 30.4%	78 31.2%	72 28.8%	80 32.0%
先端	78 7.8%	25 4.9%	53 10.9%	26 10.4%	24 9.6%	15 6.0%	13 5.2%
革新	36 3.6%	11 2.1%	25 5.1%	14 5.6%	11 4.4%	4 1.6%	7 2.8%
国際	614 61.4%	293 57.0%	321 66.0%	163 65.2%	142 56.8%	159 63.6%	150 60.0%
基礎	247 24.7%	120 23.3%	127 26.1%	59 23.6%	61 24.4%	67 26.8%	60 24.0%
技能	153 15.3%	74 14.4%	79 16.3%	49 19.6%	37 14.8%	36 14.4%	31 12.4%
期待するものは 無い	124 12.4%	87 16.9%	37 7.6%	27 10.8%	34 13.6%	25 10.0%	38 15.2%
のべ回答数	1558	750	808	414	387	378	379

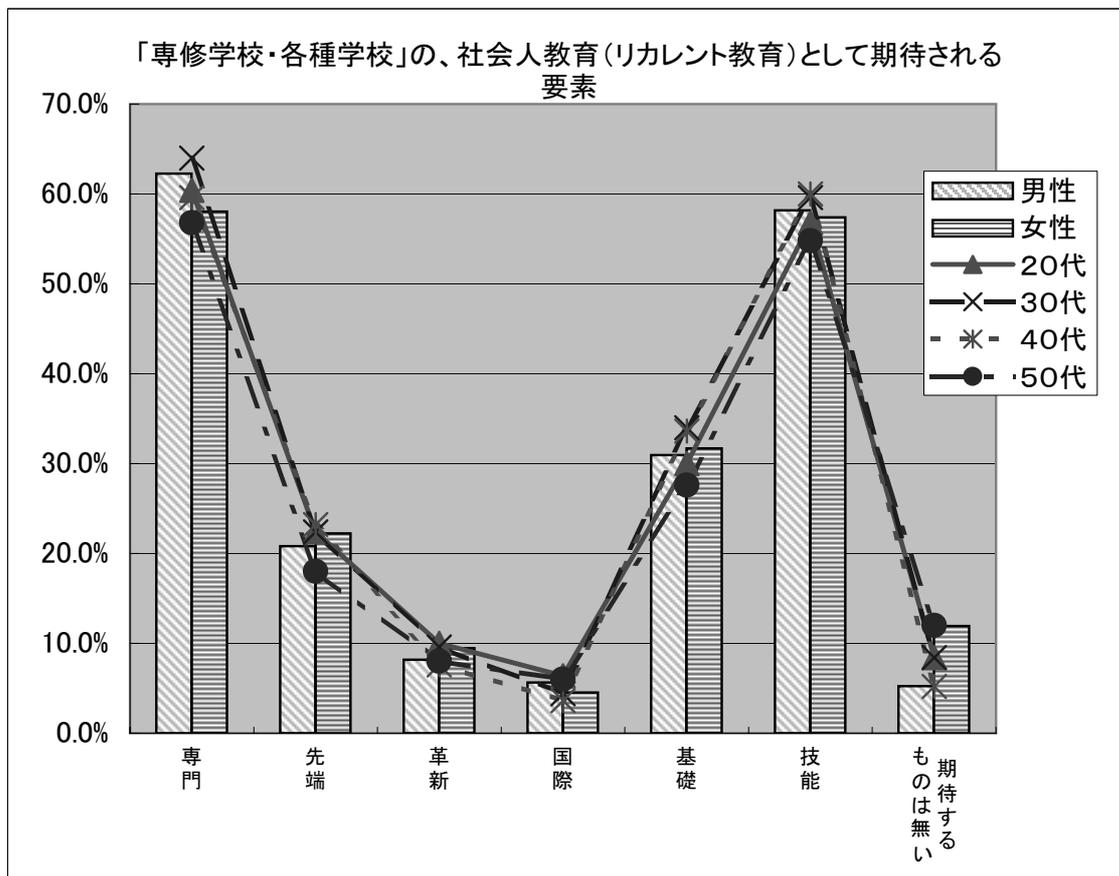
この表は、「エンployアビリティ(就業能力)を高める」機関として用意した選択肢「語学学校」に対し、本来はどのような要素を求めるかを性別、年代別に表したものである。



Q9-3 「専修学校・各種学校」の、社会人教育(リカレント教育)として期待される要素について(MA) (n=1000)

専修学校・ 各種学校 に期待される要素	人数 (MA)	男性	女性	20代	30代	40代	50代
	1000	514	486	250	250	250	250
専門	602	320	282	151	160	149	142
	60.2%	62.3%	58.0%	60.4%	64.0%	59.6%	56.8%
先端	215	107	108	56	56	58	45
	21.5%	20.8%	22.2%	22.4%	22.4%	23.2%	18.0%
革新	88	42	46	25	24	19	20
	8.8%	8.2%	9.5%	10.0%	9.6%	7.6%	8.0%
国際	51	29	22	16	11	9	15
	5.1%	5.6%	4.5%	6.4%	4.4%	3.6%	6.0%
基礎	313	159	154	75	85	84	69
	31.3%	30.9%	31.7%	30.0%	34.0%	33.6%	27.6%
技能	578	299	279	142	149	150	137
	57.8%	58.2%	57.4%	56.8%	59.6%	60.0%	54.8%
期待するものは 無い	85	27	58	21	21	13	30
	8.5%	5.3%	11.9%	8.4%	8.4%	5.2%	12.0%
のべ回答数	1932	983	949	486	506	482	458

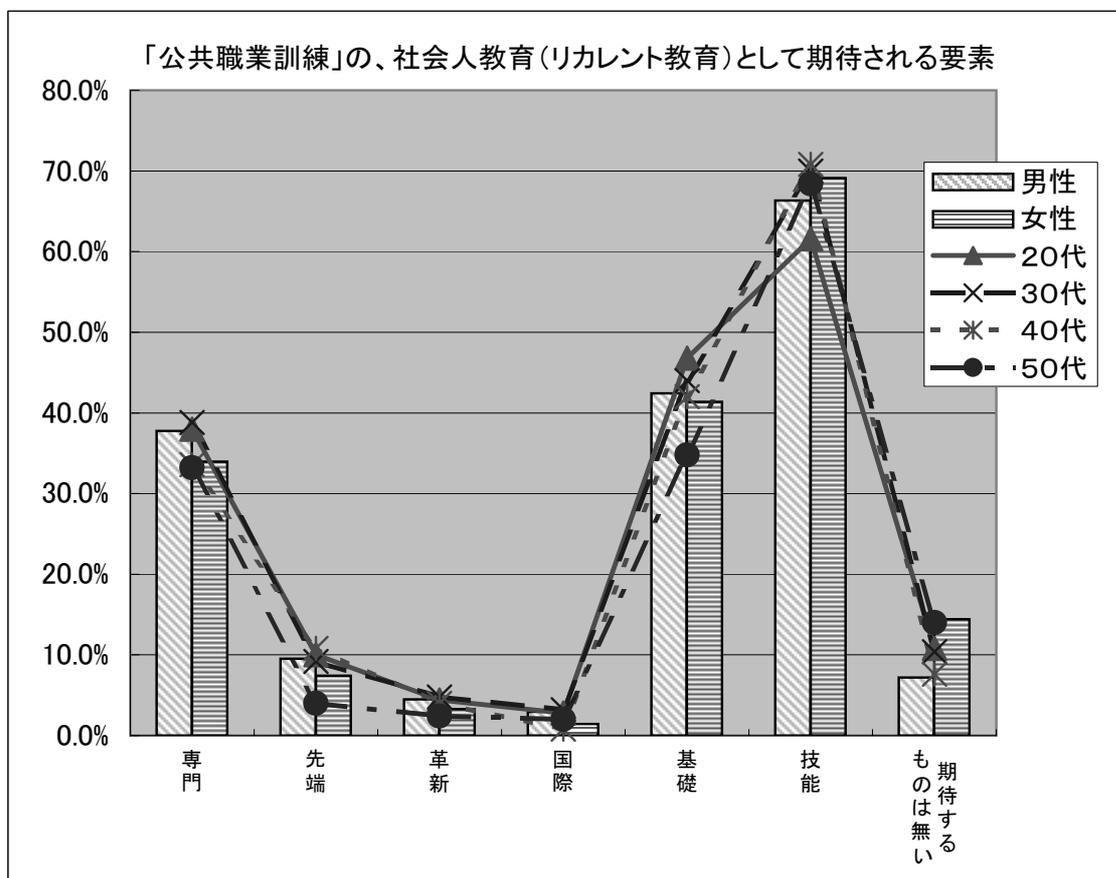
この表は、「エンプロイアビリティ(就業能力)を高める」機関として用意した選択肢「専修学校・各種学校」に対し、本来はどのような要素を求めるかを性別、年代別に表したものである。



Q9-4 「公共職業訓練」の、社会人教育(リカレント教育)として期待される要素について(MA) (n=1000)

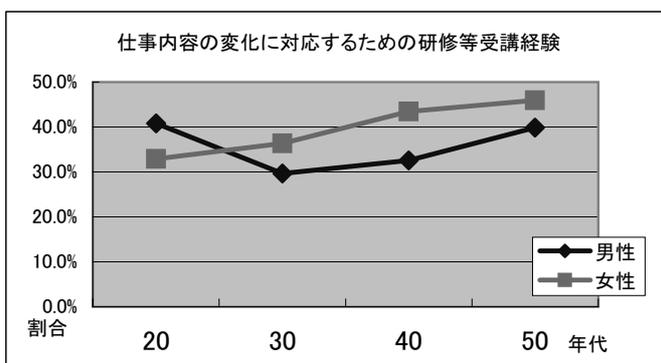
公共職業訓練 に期待される要素	人数 (MA)	男性	女性	20代	30代	40代	50代
専門	359	194	165	95	97	84	83
	35.9%	37.7%	34.0%	38.0%	38.8%	33.6%	33.2%
先端	85	49	36	25	23	27	10
	8.5%	9.5%	7.4%	10.0%	9.2%	10.8%	4.0%
革新	39	23	16	11	12	10	6
	3.9%	4.5%	3.3%	4.4%	4.8%	4.0%	2.4%
国際	22	15	7	7	8	2	5
	2.2%	2.9%	1.4%	2.8%	3.2%	0.8%	2.0%
基礎	419	218	201	117	110	105	87
	41.9%	42.4%	41.4%	46.8%	44.0%	42.0%	34.8%
技能	677	341	336	154	175	177	171
	67.7%	66.3%	69.1%	61.6%	70.0%	70.8%	68.4%
期待するものは 無い	107	37	70	27	26	19	35
	10.7%	7.2%	14.4%	10.8%	10.4%	7.6%	14.0%
のべ回答数	1708	877	831	436	451	424	397

この表は、「エンプロイアビリティ(就業能力)を高める」機関として用意した選択肢「公共職業訓練」に対し、本来はどのような要素を求めるかを性別、年代別に表したものである。



Q10 従事する仕事内容の変化に対応するための研修や講習、職業訓練の受講経験について(SA) (n=1000)

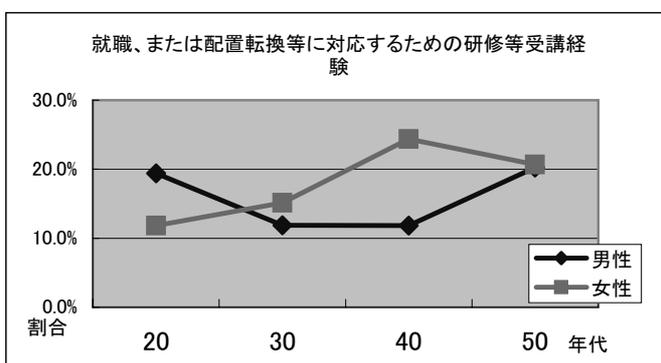
受講経験の有無		年代 人数	年代			
			20代	30代	40代	50代
あり	男性	184	40 40.8%	35 29.7%	44 32.6%	65 39.9%
	女性	188	50 32.9%	48 36.4%	50 43.5%	40 46.0%
なし	男性	330	58 59.2%	83 70.3%	91 67.4%	98 60.1%
	女性	298	102 67.1%	84 63.6%	65 56.5%	47 54.0%
人数		1000	250	250	250	250



この表は、「従事する仕事内容の変化に対応するため」の研修や職業訓練等の受講経験を、性別、年代別に表したものである。

Q11 就職の為、または配置転換等、職種の異なる業務を行うための職業訓練の受講経験について(SA) (n=1000)

受講経験の有無		年代 人数	年代			
			20代	30代	40代	50代
あり	男性	82	19 19.4%	14 11.9%	16 11.9%	33 20.2%
	女性	84	18 11.8%	20 15.2%	28 24.3%	18 20.7%
なし	男性	432	79 80.6%	104 88.1%	119 88.1%	130 79.8%
	女性	402	134 88.2%	112 84.8%	87 75.7%	69 79.3%
計		1000	250	250	250	250



この表は、「従事する仕事内容の変化に対応するため」の研修や職業訓練等の受講経験を、性別、年代別に表したものである。

Q12 (Q11「あり」の回答者に対して) 受講した職業訓練の実施団体(SA) (n=166)

職業訓練の実施団体		年代				計																
性別	実施団体	20代		30代		40代		50代		計												
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合													
男性	公共職業訓練施設	5		8		8		15		36												
	専修学校・各種学校		8		3		6		8	25												
	大学・大学院		2		0		0		3	5												
	NPO法人			2		2		1		4	9											
	その他			2		1		1		3	7											
女性	公共職業訓練施設	10		10		18		14		52												
	専修学校・各種学校		7		9		7		4	27												
	大学・大学院		0		0		0		0	0												
	NPO法人		0		1		0		0	1												
	その他			1				3		0	4											
計		15	15	2	2	3	18	12	0	3	1	26	13	0	1	4	29	12	3	4	3	166

この表は、「受講した職業訓練の実施団体」を、性別、年代別に表したものである。

Q12-1 (Q11「あり」の回答者に対して) 受講した職業訓練の実施団体のうち、その他の回答について

社内研修	11
その他	4「厚労省と財務省」、「生協」、「語学学校」、「eラーニング」が各1名

- Q13 (Q11「あり」の回答者に対して)受講した職業訓練の期間(SA) (n=166)  
 Q14 (Q11「あり」の回答者に対して)受講した職業訓練の期間に対する評価(SA) (n=166)  
 各職業訓練機関の訓練設定期間に対する時間的評価についてのクロス集計

期間の設定と満足度	公共職業訓練施設				専修学校・各種学校				大学・大学院				NPO法人				その他				人数		
1日未満	3				1				1				2				1				8		
1週間未満		11				12				1				3				4			31		
1ヶ月～3ヶ月			46				17				3				1				6		73		
6ヶ月				20				16				0				1				0	37		
1年以上												0					3			0	17		
長い		1	3	1	1		2	5	2	0			1			1	1	1		1			20
妥当	3	8	31	16	5	1	9	10	13	5	1		2		2	2	1		2	3			114
短い		2	12	3	2		1	2	1	1		1							1	1	5		32

この表は、「受講した職業訓練の実施団体」毎の訓練期間と、それに対する長短の評価を表したものである。

- Q13 (Q11「あり」の回答者に対して)受講した職業訓練の期間(SA) (n=166)  
 Q15 (Q11「あり」の回答者に対して)受講した職業訓練の受講料(n=166)  
 各職業訓練機関の訓練に対する受講料についてのクロス集計

期間と受講料	公共職業訓練施設				専修学校・各種学校				大学・大学院				NPO法人				その他				人数		
1日未満	3				1				1				2				1				8		
1週間未満		11				12				1				3				4			31		
1ヶ月～3ヶ月			46				17				3				1				6		73		
6ヶ月				20				16				0				1				0	37		
1年以上												0					3			0	17		
1万未満	3	4	22	7	4		4	4	1			2			1			1	3	4		60	
1万～5万未満		5	19	8	1	1	5	5	2	1	1			2	1	1		1	1			53	
5万～10万未満		1	3	1			2	2							1	1			1			12	
10万～25万未満		1	1	3	2		1	5	1			1			1							16	
25万～50万未満			1	1	1			1	8	2								1					15
50万～100万未満									1	1													2
100万以上									4	2									1	1			8

この表は、「受講した職業訓練の実施団体」毎の訓練期間と、その受講料を表したものである。

- Q15 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料(n=155)  
 Q16 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料負担者(n=155)  
 各職業訓練機関の訓練に対する受講料と負担者についてのクロス集計

期間と受講料	公共職業訓練施設				専修学校・各種学校				大学・大学院				NPO法人				人数					
1万未満	40				9				2				1				52					
1万～5万未満		33				13				2				4			52					
5万～10万未満			5				4				0				2		11					
10万～25万未満				7				7				1				1	16					
25万～50万未満																0	15					
50万～100万未満																	0					
100万以上																	0					
自分で負担	18	28	2	6	2		2	7	4	6	9	2	5	2	1			1	1	1	1	98
家族が負担		1				1	1											1			5	
会社が負担	9	4	1			3	5	1	1			2						1	2	1	1	31
その他	13		2	1	1		3			1												21

Q15 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料(n=155)  
 Q17 (Q11「あり」の回答者に対して(その他を除く))受講した職業訓練の受講料の妥当性(n=155)  
 各職業訓練機関の訓練に対する受講料と内容の妥当性についてのクロス集計

期間と受講料	公共職業訓練施設					専修学校・各種学校					大学・大学院					NPO法人					人数	
1万未満	40					9					2					1					52	
1万～5万未満		33					13					2					4				52	
5万～10万未満			5					4					0					2			11	
10万～25万未満				7					7					1					1		16	
25万～50万未満					3					11				0						1	15	
50万～100万未満					0					2					0					0	2	
100万以上					0										6					0	7	
高い	1	5	3	3	2	1	2	3	4	6	2	5	1	1				1	2	1	1	44
妥当	23	15	2	3		5	10	1	3	4		1	2	1				1	2		1	74
安い	16	13		1	1	3	1			1								1				37

- Q18 受講した職業訓練の分類(n=166)  
 Q19 受講した職業訓練の効果(n=166)  
 Q20 受講した職業訓練の形式(複数回答)(n=166)  
 Q21 あなたが受講された職業訓練の形式毎の魅力についてお答えください。  
 Q21\_1 本人の志向に合わせた訓練(n=30)  
 Q21\_2 思考特性毎にグループ分けされた訓練(n=12)  
 Q21\_3 背景の異なる人たちが集まった訓練(n=60)  
 Q21\_4 本人の習熟度に合わせた訓練(n=23)  
 Q21\_5 習熟度毎にグループ分けされた訓練(n=14)  
 Q21\_6 高度・最先端な内容の訓練(n=13)  
 Q21\_7 高度・最先端機器を使用した訓練(n=17)  
 Q21\_8 基本事項を繰り返し学習する訓練(n=57)  
 Q21\_9 講師や他人に干渉されない訓練(n=4)  
 Q21\_10 理解度を確認しながら進める訓練(n=47)  
 Q21\_11 その他(n=1)

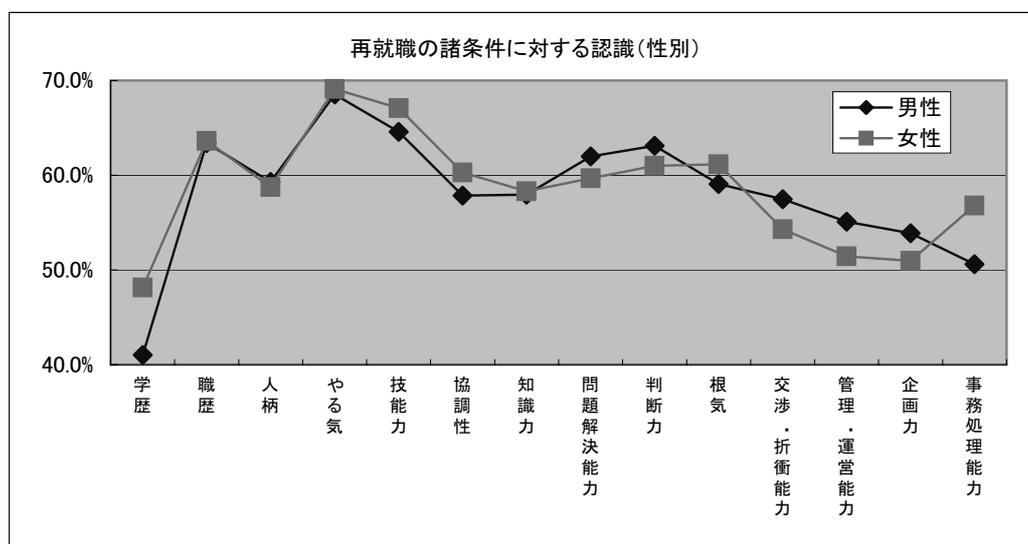
※ Q18からQ21にかけての職業訓練の分類及び効果、訓練の形式についての回答結果に対する分析は、回答数が少数のため省略する。

- Q22 次にあげる諸条件が、再就職に結びつくための条件として、どれぐらいのウエイトを占めるか  
 Q23 次にあげる人柄に関するキーワードが、再就職に結びつくための条件として、どれぐらいのウエイトを占めるか  
 上記設問に関する、男女別のクロス集計(n=1000)

性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
男性 n=514	学歴	55	148	126	98	75	12	41.0%
	職歴	11	37	82	155	182	47	63.4%
	人柄	10	83	81	129	163	48	59.3%
	やる気	9	52	50	108	190	105	68.5%
	技能力	17	37	65	140	202	53	64.6%
	協調性	18	67	79	182	124	44	57.9%
	知識力	22	52	84	184	143	29	57.9%
	問題解決能力	23	48	68	140	186	49	62.0%
	判断力	24	40	66	146	178	60	63.1%
	根気	29	55	66	166	157	41	59.1%
	交渉・折衝能力	28	59	87	153	150	37	57.5%
	管理・運営能力	33	61	100	157	131	32	55.1%
	企画力	39	57	113	146	131	28	53.9%
事務処理能力	38	70	124	168	91	23	50.6%	

性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
女性 n=486	学歴	18	102	140	131	80	15	48.1%
	職歴	4	36	83	147	177	39	63.6%
	人柄	12	73	86	119	154	42	58.8%
	やる気	12	35	53	107	178	101	69.1%
	技能力	9	30	51	135	212	49	67.1%
	協調性	22	47	74	141	163	39	60.3%
	知識力	30	34	83	167	144	28	58.3%
	問題解決能力	32	35	73	153	155	38	59.7%
	判断力	28	31	72	152	164	39	61.0%
	根気	28	34	79	144	143	58	61.2%
	交渉・折衝能力	35	36	114	176	98	27	54.3%
	管理・運営能力	42	45	125	164	87	23	51.4%
	企画力	40	44	129	173	83	17	50.9%
事務処理能力	25	44	100	163	123	31	56.8%	

この表は、「再就職の条件(キーワード)が再就職に際し、どの程度のウエイトを占めるか」を、性別に0～100%の20%刻みで聞いたものである。



- Q22 次にあげる諸条件が、再就職に結びつくための条件として、どれぐらいのウエイトを占めるか  
 Q23 次にあげる人柄に関するキーワードが、再就職に結びつくための条件として、どれぐらいのウエイトを占めるか  
 上記設問に関する、年代別のクロス集計(n=1000)

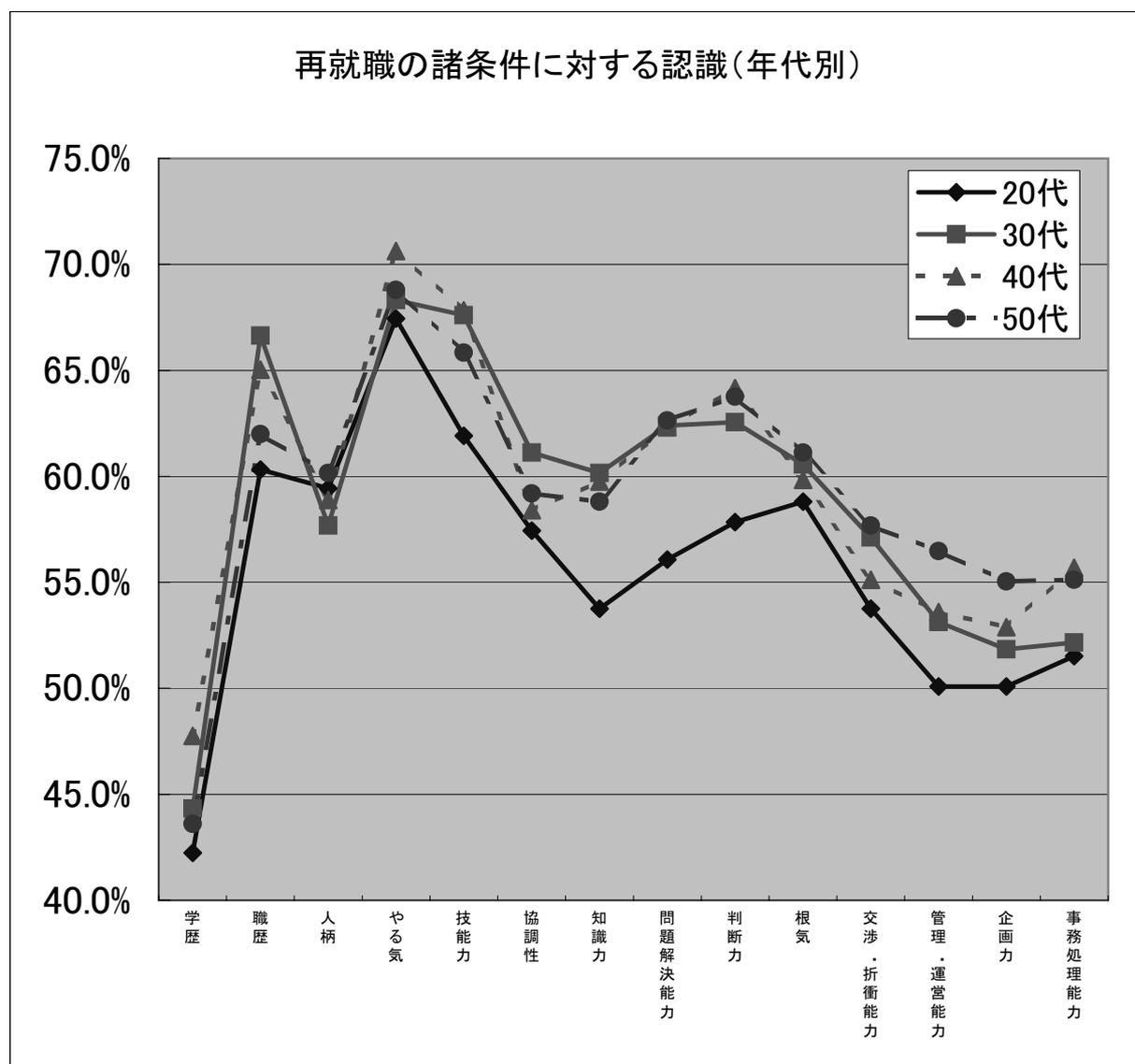
性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
20代 n=250	学歴	15	70	69	68	24	4	42.2%
	職歴	1	24	54	74	85	12	60.3%
	人柄	3	35	55	52	83	22	59.4%
	やる気	7	21	37	44	89	52	67.4%
	技能力	11	17	44	66	89	23	61.9%
	協調性	9	33	42	78	73	15	57.4%
	知識力	17	23	52	98	49	11	53.8%
	問題解決能力	16	23	44	91	63	13	56.1%
	判断力	15	21	41	89	67	17	57.8%
	根気	15	22	42	80	66	25	58.8%
	交渉・折衝能力	16	24	65	75	57	13	53.8%
	管理・運営能力	17	28	79	75	40	11	50.1%
	企画力	18	25	78	82	36	11	50.1%
事務処理能力	16	31	65	82	43	13	51.5%	

性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
30代 n=250	学歴	18	65	67	54	37	9	44.3%
	職歴	2	14	33	78	96	27	66.6%
	人柄	7	40	44	61	80	18	57.7%
	やる気	8	16	23	69	85	49	68.3%
	技能力	5	15	23	69	113	25	67.6%
	協調性	11	22	38	78	73	28	61.1%
	知識力	11	18	41	83	82	15	60.2%
	問題解決能力	9	20	35	77	86	23	62.4%
	判断力	11	13	38	83	81	24	62.6%
	根気	11	23	37	82	71	26	60.6%
	交渉・折衝能力	13	29	45	79	62	22	57.1%
	管理・運営能力	18	33	56	71	54	18	53.1%
	企画力	21	31	56	75	55	12	51.8%
事務処理能力	18	36	54	77	48	17	52.2%	

性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
40代 n=250	学歴	15	55	64	57	52	7	47.8%
	職歴	3	18	34	78	92	25	65.0%
	人柄	7	40	37	66	76	24	58.9%
	やる気	4	27	19	43	96	61	70.6%
	技能力	3	15	22	75	111	24	67.8%
	協調性	13	28	34	83	75	17	58.4%
	知識力	10	22	38	84	83	13	59.8%
	問題解決能力	15	18	36	57	102	22	62.3%
	判断力	12	21	31	53	105	28	64.2%
	根気	16	23	36	73	76	26	59.8%
	交渉・折衝能力	15	26	49	90	55	15	55.1%
	管理・運営能力	21	24	42	98	57	8	53.6%
	企画力	18	26	58	81	59	8	52.9%
事務処理能力	15	24	49	88	60	14	55.7%	

性別	条件	0%	20%	40%	60%	80%	100%	平均
50代 n=250	学歴	25	60	66	50	42	7	43.6%
	職歴	9	17	44	72	86	22	62.0%
	人柄	5	41	31	69	78	26	60.2%
	やる気	2	23	24	59	98	44	68.8%
	技能力	7	20	27	65	101	30	65.8%
	協調性	7	31	39	84	66	23	59.2%
	知識力	14	23	36	86	73	18	58.8%
	問題解決能力	15	22	26	68	90	29	62.6%
	判断力	14	16	28	73	89	30	63.8%
	根気	15	21	30	75	87	22	61.1%
	交渉・折衝能力	19	16	42	85	74	14	57.7%
	管理・運営能力	19	21	48	77	67	18	56.5%
	企画力	22	19	50	81	64	14	55.0%
	事務処理能力	14	23	56	84	63	10	55.1%

この表は、「再就職の条件(キーワード)が再就職に際し、どの程度のウエイトを占めるか」を、年代別に0～100%の20%刻みで聞いたものである。



Q24 Q23、Q24で上げた人柄に関するキーワード以外で、再就職のために必要と思われるキーワード

選択肢以外の再就職に必要と思われるキーワード	回答数
「EQ、心(マインド)、性格、ホスピタリティ、協調性、コミュニケーション」に関するキーワード	73
「スキル、能力、技能に関する」キーワード	68
「特になし」に関するキーワード	38
「やる気、積極性、根気、バイタリティ」に関するキーワード	38
「外見、容姿、印象、年齢、健康、家庭環境」に関するキーワード	34
「表現力」に関するキーワード	29
「適応、忍耐、順応」に関するキーワード	28
「運、コネ、タイミング」に関するキーワード	26
「常識、礼儀」に関するキーワード	24
「経験、キャリア」に関するキーワード	22
「見極める力」に関するキーワード	22
「専門知識」に関するキーワード	15
「テクニック」に関するキーワード	14
「行動力、革新力、リーダーシップ力」に関するキーワード	12
その他	4

Q25 自らの意思でなく、失業状態になった場合、国に求めるものは何か？(MA:2つまで)(n=1000)

国に求めるもの(主)	人数	(従) 選択なし	自らの意思でなく失業状態になった場合、 国に求めるもの(従)					
			①	②	③	④	⑤	⑥
① 就職先の 情報提供	374	59 15.8%		84 22.5%	117 31.3%	45 12.0%	40 10.7%	29 7.8%
② 就職先の 斡旋	363	41 11.3%	84 23.1%		165 45.5%	34 9.4%	4 1.1%	35 9.6%
③ 生活のための 資金供与	522	99 19.0%	117 22.4%	165 31.6%		74 14.2%	19 3.6%	48 9.2%
④ 生活のための 資金貸与	208	37 17.8%	45 21.6%	34 16.3%	74 35.6%		6 2.9%	12 5.8%
⑤ 職業訓練の 情報提供	105	13 12.4%	40 38%	4 3.8%	19 18.1%	6 5.7%		23 21.9%
⑥ 職業訓練の 実施	163	16 9.8%	29 18%	35 21.5%	48 29.4%	12 7.4%	23 14.1%	

この表は、「自らの意思でなく失業状態になった場合、国に何を求めるか」を聞いたもので、回答者がどのような選択肢を組み合わせ選んだかを表したものである。

Q26 (前問の状態から)就職先を探したにもかかわらず1年以上失業状態が続いた場合、国に求めるものは何か？(MA:2つまで)(n=1000)

国に求めるもの(主)		人数	(従) 選択なし	就職先を探したにもかかわらず1年以上失業状態が続いた場合、国に求めるもの(従)						Q25からの 増減
①	②			③	④	⑤	⑥			
①	就職先の 情報提供	166	35		41	51	25	9	5	-208
			21.1%		24.7%	30.7%	15.1%	5.4%	3.0%	-55.6%
②	就職先の 斡旋	411	53	41		228	53	6	30	48
			12.9%	10.0%		55.5%	12.9%	1.5%	7.3%	13.2%
③	生活のための 資金供与	565	117	51	228		98	16	55	43
			20.7%	9.0%	40.4%		17.3%	2.8%	9.7%	8.2%
④	生活のための 資金貸与	296	84	25	53	98		7	29	88
			28.4%	8.4%	17.9%	33.1%		2.4%	9.8%	42.3%
⑤	職業訓練の 情報提供	72	12	9	6	16	7		22	-33
			16.7%	13%	8.3%	22.2%	9.7%		30.6%	-31.4%
⑥	職業訓練の 実施	165	24	5	30	55	29	22		2
			14.5%	3%	18.2%	33.3%	17.6%	13.3%		1.2%

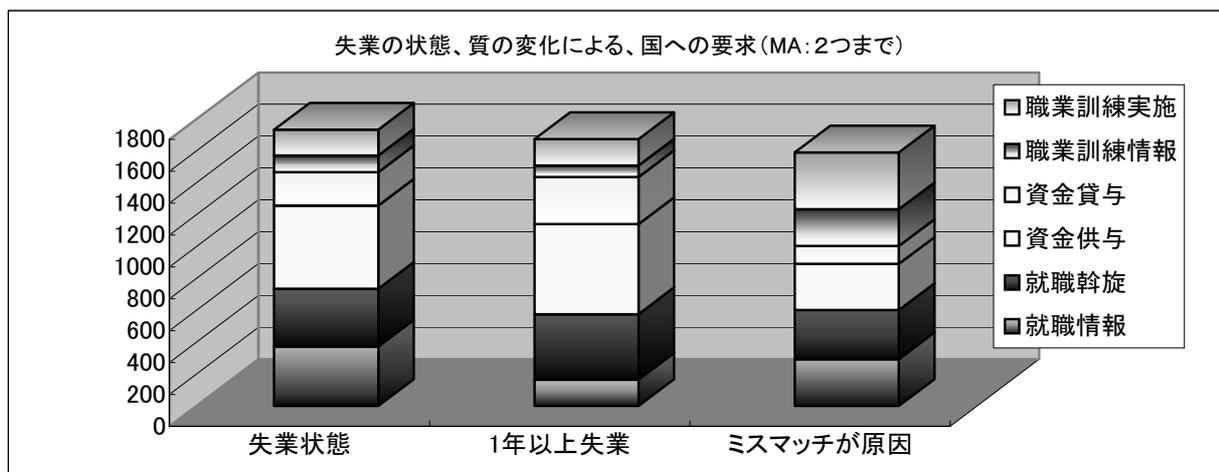
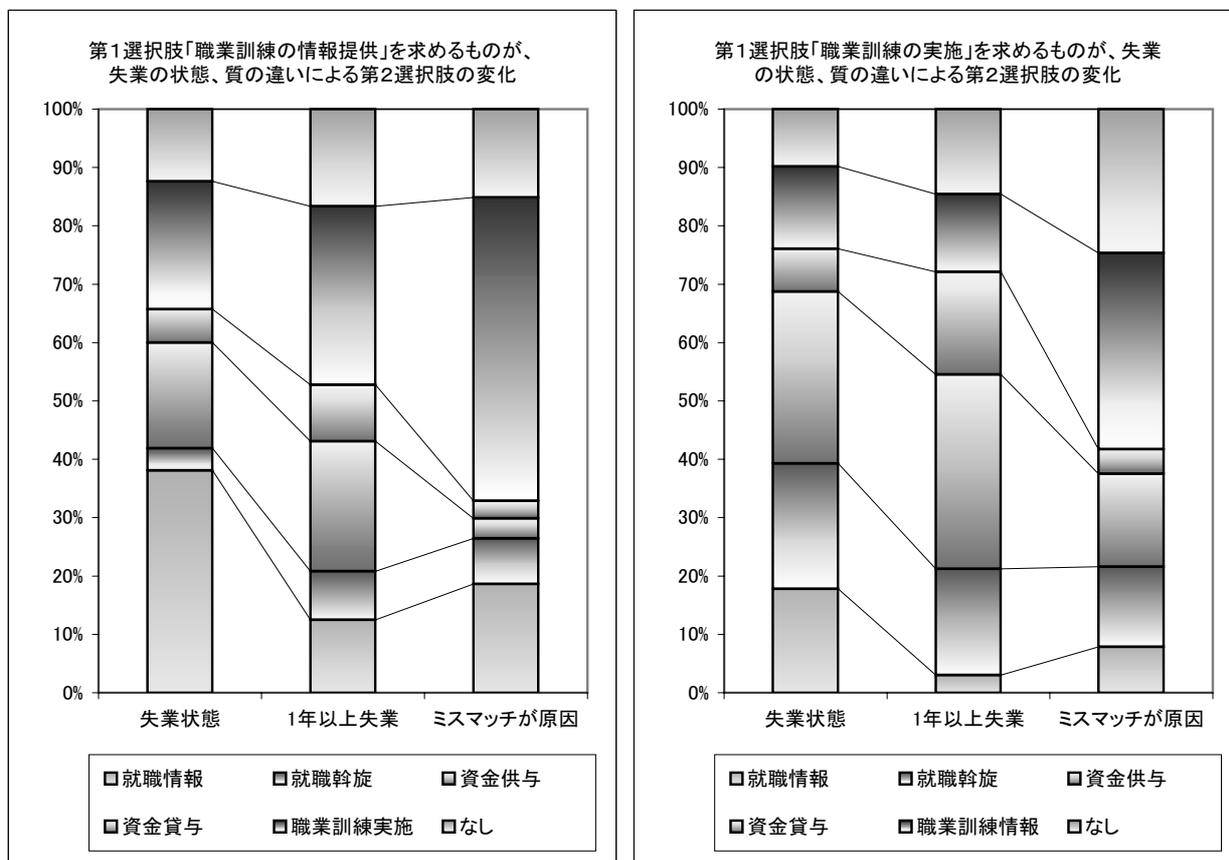
この表は、「自らの意思でなく失業状態になって、就職先を探したにもかかわらず1年以上失業状態が続いた場合、国に何を求めるか」を聞いたもので、回答者がどのような選択肢を組み合わせて選んだかを表したものである。

Q27 (前問の状態から)就職先が決まらない理由として、自身の能力が求人企業とミスマッチを起こしていたと判った場合、国に求めるものは何か？(MA:2つまで)(n=1000)

国に求めるもの(主)		人数	(従) 選択なし	就職先が決まらない理由として、自身の能力が求人企業とミスマッチを起こしていたと判った場合、国に求めるもの(従)						Q25からの 増減	Q26からの 増減
①	②			③	④	⑤	⑥				
①	就職先の 情報提供	295	97		78	33	16	43	28	-79	129
			32.9%		26.4%	11.2%	5.4%	14.6%	9.5%	-21.1%	77.7%
②	就職先の 斡旋	308	77	78		74	12	18	49	-55	-103
			25.0%	25.3%		24.0%	3.9%	5.8%	15.9%	-15.2%	-25.1%
③	生活のための 資金供与	289	83	33	74		34	8	57	-233	-276
			28.7%	11.4%	25.6%		11.8%	2.8%	19.7%	-44.6%	-48.8%
④	生活のための 資金貸与	112	28	16	12	34		7	15	-96	-184
			25.0%	14.3%	10.7%	30.4%		6.3%	13.4%	-46.2%	-62.2%
⑤	職業訓練の 情報提供	231	35	43	18	8	7		120	126	159
			15%	19%	7.8%	3.5%	3.0%		51.9%	120.0%	220.8%
⑥	職業訓練の 実施	357	88	28	49	57	15	120		194	192
			25%	8%	13.7%	16.0%	4.2%	33.6%		119.0%	116.4%

この表は、「自らの意思でなく失業状態になって、就職先を探したにもかかわらず1年以上失業状態が続いてしまい、その原因として自身の能力が求人企業とミスマッチを起こしていたと判った場合、国に何を求めるか」を聞いたもので、回答者がどのような選択肢を組み合わせて選んだかを表したものである。





Q28 自身の能力が、必要とされる能力とミスマッチがおきる要因として考えられるものは何か？ (MA)(n=1000)

Q29 年間あたりどれぐらいのミスマッチを起こすと考えられるか

	人数 (MA)	ミスマッチの割合／年					
		0%	1～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81～100%
技能、技術の進歩	557	11 2.0%	150 26.9%	170 30.5%	184 33.0%	29 5.2%	13 2.3%
経済の国際化	148	3 2.0%	49 33.1%	44 29.7%	37 25.0%	5 3.4%	10 6.8%
自身の努力不足	620	16 2.6%	153 24.7%	184 29.7%	168 27.1%	60 9.7%	39 6.3%
自身の老化	375	12 3.2%	107 28.5%	84 22.4%	105 28.0%	37 9.9%	30 8.0%

- Q30 新しい知識、技術、技能を習得する場合の行動について(SA)(n=1000)  
 Q31 新しい知識、技術、技能を習得する場合の行動(選択肢)を選んだ理由について(SA)(n=1000)  
 Q32 次の行動(選択肢)に移す理由について(SA)(n=1000)  
 Q33 経験上、次の行動(選択肢)に移す割合について(SA)(n=1000)

1番目の行動とそれを行う理由

1番目の行動	人数	選択肢を選んだ理由					
		気楽に	都合のよい ときに	無料、もし くは安い	短時間で	関連内容 もプラス	信頼できる
専門書を読む	367	149	178	70	54	59	50
		40.6%	48.5%	19.1%	14.7%	16.1%	13.6%
講習会などに参加	202	14	23	7	87	84	44
		6.9%	11.4%	3.5%	43.1%	41.6%	21.8%
インターネットで学習	258	155	156	114	30	20	2
		60.1%	60.5%	44.2%	11.6%	7.8%	0.8%
詳しい人に尋ねる	173	37	7	30	43	32	84
		21.4%	4.0%	17.3%	24.9%	18.5%	48.6%

2番目にとる行動

1番目の行動	人数	2番目の行動			
		専門書	講習会	インターネッ ト	(別の) 詳しい人
専門書を読む	367		132	172	63
			36.0%	46.9%	17.2%
講習会などに参加	202	113		54	35
		55.9%		26.7%	17.3%
インターネットで学習	258	146	42		70
		56.6%	16.3%		27.1%
詳しい人に尋ねる	173	54	41	77	1
		31.2%	23.7%	44.5%	0.6%

2番目の行動に移す理由

1番目の行動	人数	2番目の行動に移す理由				経験上、行動に移す割合						
		取得できた か不安	理解できな かった	一部未理 解を明確に	より深く習 得	0%	1~ 20%	21~ 40%	41~ 60%	61~ 80%	81~ 100%	平均
専門書を読む	367	110	89	92	76	1	72	109	105	53	27	46.3%
		30.0%	24.3%	25.1%	20.7%	0.3%	19.6%	29.7%	28.6%	14.4%	7.4%	
講習会などに参加	202	48	37	61	56	0	35	64	67	24	12	45.2%
		23.8%	18.3%	30.2%	27.7%	0.0%	17.3%	31.7%	33.2%	11.9%	5.9%	
インターネットで学習	258	62	60	76	60	0	57	61	82	44	14	46.4%
		24.0%	23.3%	29.5%	23.3%	0.0%	22.1%	23.6%	31.8%	17.1%	5.4%	
詳しい人に尋ねる	173	31	29	57	56	0	32	43	56	22	20	49.5%
		17.9%	16.8%	32.9%	32.4%	0.0%	18.5%	24.9%	32.4%	12.7%	11.6%	

2番目の行動とそれを行う理由

2番目の行動	人数	選択肢を選んだ理由					
		気楽に	都合のよい ときに	無料、もし くは安い	短時間で	関連内容 もプラス	信頼できる
専門書を読む	313	85	150	54	60	66	42
		27.2%	47.9%	17.3%	19.2%	21.1%	13.4%
講習会などに参加	215	16	54	28	66	67	43
		7.4%	25.1%	13.0%	30.7%	31.2%	20.0%
インターネットで学習	303	107	159	97	43	38	19
		35.3%	52.5%	32.0%	14.2%	12.5%	6.3%
詳しい人に尋ねる	169	28	34	41	49	37	56
		16.6%	20.1%	24.3%	29.0%	21.9%	33.1%

### 3番目にとる行動

2番目の行動	人数	3番目の行動			
		専門書	講習会	インターネット	(別の) 詳しい人
専門書を読む	313		98 31.3%	101 32.3%	114 36.4%
講習会などに参加	215	58 27.0%		109 50.7%	48 22.3%
インターネットで学習	303	84 27.7%	103 34.0%		116 38.3%
詳しい人に尋ねる	169	70 41.4%	48 28.4%	50 29.6%	1 0.6%

### 3番目の行動に移す理由

2番目の行動	人数	3番目の行動に移す理由				経験上、行動に移す割合						
		取得できな か不安	理解できな かった	一部未理 解を明確に	より深く習 得	0%	1~ 20%	21~ 40%	41~ 60%	61~ 80%	81~ 100%	平均 (中間値)
専門書を読む	313	38 12.1%	72 23.0%	135 43.1%	68 21.7%	4 1.3%	122 39.0%	140 44.7%	36 11.5%	7 2.2%	4 1.3%	29.4%
講習会などに参加	215	32 14.9%	56 26.0%	79 36.7%	48 22.3%	1 0.5%	66 30.7%	93 43.3%	42 19.5%	9 4.2%	4 1.9%	33.9%
インターネットで学習	303	41 13.5%	81 26.7%	104 34.3%	75 24.8%	6 2.0%	100 33.0%	131 43.2%	48 15.8%	13 4.3%	5 1.7%	32.1%
詳しい人に尋ねる	169	28 16.6%	31 18.3%	55 32.5%	55 32.5%	0 0.0%	58 34.3%	78 46.2%	23 13.6%	7 4.1%	3 1.8%	32.0%

### 3番目の行動とそれを行う理由

3番目の行動	人数	選択肢を選んだ理由					
		気楽に	都合のよ いときに	無料、もし くは安い	短時間で	関連内容 もプラス	信頼できる
専門書を読む	212	42 19.8%	85 40.1%	45 21.2%	45 21.2%	41 19.3%	38 17.9%
講習会などに参加	249	22 8.8%	20 8.0%	37 14.9%	37 14.9%	99 39.8%	53 21.3%
インターネットで学習	260	75 28.8%	80 30.8%	85 32.7%	85 32.7%	52 20.0%	23 8.8%
詳しい人に尋ねる	279	41 14.7%	23 8.2%	78 28.0%	78 28.0%	63 22.6%	93 33.3%

### 4番目にとる行動

3番目の行動	人数	4番目の行動			
		(別の) 専門書	講習会	インターネッ ト	(別の) 詳しい人
専門書を読む	212	2 0.9%	102 48.1%	42 19.8%	66 31.1%
講習会などに参加	249	46 18.5%		59 23.7%	144 57.8%
インターネットで学習	260	33 12.7%	59 22.7%		168 64.6%
詳しい人に尋ねる	279	30 10.8%	166 59.5%	81 29.0%	2 0.7%

4番目の行動に移す理由

3番目の行動	人数	4番目の行動に移す理由				経験上、行動に移す割合						
		取得できたか不安	理解できなかった	一部未理解を明確に	より深く習得	0%	1～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81～100%	平均(中間値)
専門書を読む	212	44 20.8%	42 19.8%	55 25.9%	71 33.5%	17 8.0%	120 56.6%	46 21.7%	24 11.3%	4 1.9%	1 0.5%	22.0%
講習会などに参加	249	58 23.3%	50 20.1%	59 23.7%	82 32.9%	19 7.6%	149 59.8%	56 22.5%	15 6.0%	4 1.6%	6 2.4%	21.1%
インターネットで学習	260	59 22.7%	52 20.0%	57 21.9%	92 35.4%	6 2.3%	161 61.9%	74 28.5%	17 6.5%	1 0.4%	1 0.4%	21.5%
詳しい人に尋ねる	279	52 18.6%	50 17.9%	54 19.4%	123 44.1%	15 5.4%	178 63.8%	59 21.1%	21 7.5%	1 0.4%	5 1.8%	20.7%

4番目の行動とそれを行う理由

4番目の行動	人数	選択肢を選んだ理由					
		気楽に	都合のよいときに	無料、もしくは安い	短時間で	関連内容もプラス	信頼できる
専門書を読む	111	22 19.8%	31 27.9%	11 9.9%	13 11.7%	27 24.3%	14 12.6%
講習会などに参加	327	30 9.2%	14 4.3%	16 4.9%	82 25.1%	142 43.4%	99 30.3%
インターネットで学習	182	71 39.0%	58 31.9%	45 24.7%	23 12.6%	30 16.5%	16 8.8%
詳しい人に尋ねる	380	64 16.8%	21 5.5%	61 16.1%	80 21.1%	94 24.7%	124 32.6%

資料2-1 (別添1 モデルカリキュラム)

# 訓練科モデルカリキュラム

※科目の内容及び時間配分につきましては、状況により変更になることもあります。

CADオペレーション科		訓練期間	就職先の職務	
		3ヶ月	住宅産業、家具販売業、 資材販売業等における図面制作、関係事務	
<b>訓練目標</b> 製図の基礎、汎用CAD及びビジネスソフトなどについて、専門知識とスキルを習得する。				
<b>仕上がり像</b> 製図の基本が理解できる。 汎用CAD及びビジネスソフトの操作ができる。 パソコンを使い各種申請書類、材料調書、見積書が作成できる。				
科目	内容		時間	
訓練の内容	学科	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方	80H
		建築概論	建築計画、建築構造、施工法、法規	
		製図概論	建築製図の基礎事項、建築図トレース	
		アプリケーション概要	パソコンの構造、OS、周辺機器、インターネットの基礎知識、セキュリティ	
		就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
実技	CADソフト実習	基本操作、作図、編集、出力、平面図、立体図	274H	
		製図実習		木造住宅製図、描き方、トレース
		アプリケーション実習		ワープロソフト基本操作、表計算ソフト基本操作、プレゼンテーションソフト基本操作
<b>受験・取得につながる免許・資格等</b>		CAD/トレース検定		
<b>主な機器・アプリケーション等</b>		パソコン、JWCADソフト、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト		

OAシステム科		訓練期間	就職先の職務	
		3ヶ月	全産業・全職種 (事務、営業、販売、生産、技術)	
<b>訓練目標</b> パソコンを使った処理全般（ワープロ、表計算、インターネット、電子メール、ホームページ作成、プレゼンテーション作成）について、即戦力となれる知識とスキルを習得する。				
<b>仕上がり像</b> 要求されている課題に応じ、速やかに表現力ある資料の作成できる。企業におけるデータベースの処理及び運用ができる。 インターネット・Eメールの利活用ができ、効率的な業務推進ができる。ホームページ作成の基礎知識、プレゼンテーション技術を持ち、広報活動や販売促進に生かすことができる。組織内のOAリーダー的な存在となりうる事ができる。				
科目	内容		時間	
訓練の内容	学科	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、	96H
		情報処理概論	パソコンの構造、OS、ファイル管理、周辺機器、インターネット、セキュリティ、インターネットツール	
		アプリケーション概論	ワープロソフト概要、表計算ソフト概要、データベースソフト概要、アプリケーションソフト活用、トラブルシューティング	
		個人情報保護概論	個人情報保護法の概要、組織体制の実務、人的管理の実務、技術的管理の実務	
		就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
実技	ワープロソフト実践	基本操作復習、各種ビジネス文書作成、効果的な広報資料作成、DM作成とデータ活用	258H	
		表計算ソフト実践		基本操作復習、関数の活用、マクロ機能、グラフ機能、印刷機能、データベース機能
		プレゼンテーションソフト実践		基本操作、ストーリー作成、資料作成、リハーサル、プレゼンテーション、反省と評価
		インターネット実践		基本操作、インターネットの仕組み、接続設定、メールソフトの実践活用、セキュリティ対策、ホームページ作成、ホームページ管理
<b>受験・取得につながる免許・資格等</b>		MOUS試験、パソコン検定		
<b>主な機器・アプリケーション等</b>		パソコン、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト		

OAビジネス科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	全産業・全職種 (事務、営業、販売、生産、技術)
訓練目標	全産業・職種を対象とし、パソコンを使った処理全般（ワープロ、表計算、インターネット、電子メール）について基本的な知識及びスキルを習得する。		
仕上がり像	パソコンの仕組みを理解し、基本的操作ができる。ワープロソフトを使い、基本的なビジネス文書、資料、広報資料を作成できる。表計算ソフトを使い、基本的なデータの管理・加工・活用ができる。インターネットと電子メールの基本的操作ができる。		
訓練の内容	科目	内容	時間
	<b>学科</b> 安全衛生 パソコン概論 アプリケーション概論 ビジスマナー概論 就職ガイダンス	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例 パソコンの構造、OS、周辺機器、インターネットの基礎知識、セキュリティ ワープロソフト概要、表計算ソフト概要、アプリケーションソフト活用法、トラブルシューティング ビジスマナーの基本、正しい言葉遣い、接遇・電話ロールプレイ、苦情処理 就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	96H
<b>実技</b> パソコン基礎実習 ワープロソフト実習 表計算ソフト実習 インターネット実習	マウス、キーボード、入力、ファイル管理、環境設定、機器接続、タイピング 基本操作、文書の編集、書式設定、印刷設定、罫線機能、表作成、画像処理、チラシ作成、DM作成、POP作成 基本操作、表計算機能、グラフ機能、印刷機能、データベース機能 基本操作、インターネットの仕組み、接続設定、ホームページ閲覧と情報収集、Eメールの基本操作、アドレス帳の活用、セキュリティ対策、Web作成	258H	
受験・取得につながる免許・資格等	MOUS試験、パソコン検定		
主な機器・アプリケーション等	パソコン、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト		

マンション・ビル管理科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	マンション管理運営業務、ビル管理業務
訓練目標	マンション及びビル管理運営業務に従事するために必要となる不動産の売買・賃借・運営に関する専門知識とパソコンの基本操作を習得する。		
仕上がり像	管理業務の委託契約を理解できる。マンション等管理組合会計の収入、支出、調停、出納業務ができる。建物及び附属施設の維持、修繕、調整業務ができる。マンション管理の適正化推進に関する法律を理解できる。簿記の基本を理解できる。ワープロ、表計算等のパソコン基本操作ができる。		
訓練の内容	科目	内容	時間
	<b>学科</b> 安全衛生 マンション・ビル管理概論 管理業務の委託契約概論 財政保全概論 建物の維持・修理の基礎知識 マンション管理の関係法令 管理事務概論 会計概論 就職ガイダンス	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方 マンション・ビル管理業務の概要 中高層共同住宅標準管理委託契約書 管理組合会計、収入、支出、調停、出納、財務諸評論 建築構造の概要、建築材料、建築物の劣化、修繕工事と手続き、ビル設備の知識 マンションの管理の適正化の推進に関する法律およびマンション管理適正化指針 建物の区分所有等に関する法律 簿記の基本、帳簿記入、会計の基礎、原価計算 就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	251H
<b>実技</b> 接遇実習 文書作成実習	ビジスマナーの基本、正しい言葉遣い、接遇・電話ロールプレイ、苦情処理 ワープロソフト基本操作、契約書、勤務表等の文書作成	103H	
受験・取得につながる免許・資格等	管理業務主任者		
主な機器・アプリケーション等	パソコン、ワープロソフト		

経理実務科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	経理事務、一般事務
訓練目標	中小企業の経理担当者として必須の簿記の専門的知識等を習得する。		
仕上がり像	帳票の整理と帳簿への記入ができる。財務諸表の見方と決算処理の基本知識を習得できる。 給与計算ができる。消費税の仕組みと主な控除項目を知っている。 ワープロ、表計算等のパソコン基本操作ができる。		
	科目	内容	時間
訓練の内容	学科	安全衛生 日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方 簿記概論 簿記の基本、帳簿記入、決算処理、会計の基礎、特殊な商品売買、本支店会計、製造業の帳簿記入、原価計算 給与計算概論 給与計算と関連知識、所得税法、年末調整 税務概論 消費税の仕組み、所得税・法人税の概要、控除項目 財務分析概論 財務諸表の見方及び分析手法 就職ガイダンス 就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	160H
	実技	簿記実習 簿記の演習問題 源泉徴収手続き実務 給与計算、賞与の計算、年末調整と関係業務 文書作成実習 ワープロソフト基本操作、請求書、発注書等の文書作成 アプリケーション実習 表計算ソフトを活用したバランスシートの作成、経費明細書の作成、会計ソフト基本操作	194H
受験・取得につながる免許・資格等		日商簿記検定3・2級、コンピューターサービス技能評価試験（ワープロ・表計算）	
主な機器・アプリケーション等		パソコン、ワープロソフト、表計算ソフト、会計ソフト	

商品管理科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	小売業・卸売業における販売業務及び営業事務担当者
訓練目標	小売業及び卸売業における販売業務・営業事務に必要な専門知識を習得する。		
仕上がり像	販売活動に必要な販売知識、販売技術の基本ができる。 商品運搬に活用されるフォークリフトの運転ができる パソコンを活用した各種文書作成ができる。		
	科目	内容	時間
訓練の内容	学科	安全衛生 日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方 販売技術概論 小売業とは、小売業の形態、消費者の要求と購買活動、顧客心理と接客販売技術、商品陳列と照明基礎、包装技術 会計概論 簿記の基本、帳簿記入、会計の基礎、原価計算 仕入・在庫管理概論 仕入形態、仕入方法、在庫管理、入出庫と梱卸 フォークリフトの知識 フォークリフトの知識、荷役と荷重 就職ガイダンス 就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	170H
	実技	販売管理実習 販売から代金回収までの事務処理演習（売上伝票、納品伝票、請求書、領収書、記憶処理） 文書作成実習 パソコン基本操作、各種文書作成 包装技術実習 環境包装、段ボール包装の実習 接客実習 ビジネスマナーの基本、正しい言葉遣い、接客・電話ロールプレイ、苦情処理 フォークリフト実習 フォークリフトの構造と安全点検、フォークリフト実習	184H
受験・取得につながる免許・資格等		フォークリフト、コンピューターサービス技能評価試験（ワープロ）	
主な機器・アプリケーション等		パソコン、ワープロソフト、表計算ソフト	

※科目の内容及び時間配分につきましては、状況により変更になることもあります。

医療事務サービス科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	医療事務、調剤薬局事務
訓練目標	医科及び歯科におけるカルテの読み方、診療報酬点数計算と請求事務などの専門知識と医事コンピュータの操作技能を習得する。調剤薬局業務の流れと調剤請求事務を習得する。		
仕上がり像	医療機関における窓口業務、請求業務ができる。 医事コンピュータの操作ができる。 薬局における窓口業務、請求業務ができる。		
科目	内容		時間
訓練の内容	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方	162H
	医療事務概論	医療保険制度の基礎知識	
	医療事務の基礎知識	医科及び歯科に係る診療報酬点数算定の基礎、カルテの読み方、会計欄記入法	
	ビジネスマナー概論	ビジネスマナーの基本、正しい言葉遣い、接遇・電話ロールプレイ、苦情処理	
	調剤事務概論	保険薬局における処方箋の流れ、調剤報酬請求方法	
	就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
実技	医療事務実習	医科及び歯科に係る診療報酬明細書作成	192H
	調剤事務実習	調剤報酬明細書作成	
	医事コンピュータ実習	医事コンピュータによる診断入力	
	窓口実習	帳票を使つての窓口実務	
受験・取得につながる免許・資格等	医療事務技能J審査試験（医科・歯科）、医事オペレーション技能認定試験、調剤報酬請求事務技能認定		
主な機器・アプリケーション等	医事コンピュータ		

介護サービス科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	介護施設、障害者施設、医療機関等における介護サービス
訓練目標	指定介護福祉施設や障害者施設において必要される基本的な介助作業・技能・コミュニケーション能力等を総合的に習得する。		
仕上がり像	福祉サービスの理念を理解できる。福祉サービス利用者と共に理解ができ、適切な態度で業務をすすめることができる。食事・入浴・排泄・移動介助等のサービスができる。障害・疾病、救急法、心理等の基本知識が習得できる。		
科目	内容		時間
訓練の内容	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方、衛生管理	198H
	介護概論	福祉理念、制度、事例検討、訪問介護の知識	
	障害者概論	制度、障害者の心理、家族の理解、移動介護	
	医療福祉概論	医学の基礎、障害・疾病、在宅看護	
	就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
実技	介護基本実習	基本介護技術、共感的理解と基本的態度の形成、救急法（心肺蘇生法、三角巾用法等） ガイドヘルパー、介護予防（音楽療法、感染症対策と予防、介護調理） 施設実習（介護実習、同行訪問、現場見学）	156H
	社会福祉援助実習	レクリエーション体験学習、コミュニケーションワーク	
	接遇マナー実習	要介護者への接遇	
	受験・取得につながる免許・資格等	訪問介護員2級課程、居宅介護従業者2級、視覚障害者及び全身性障害者移動介護従業者（ガイドヘルパー）、赤十字救命救急員	
主な機器・アプリケーション等	介護用機器、福祉用具、救急法・心肺蘇生法用具、パソコン		

※科目の内容及び時間配分につきましては、状況により変更になることがあります。

総務実務科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	総務事務、一般事務
訓練目標	中小企業の総務担当者として必要な労働基準法、労働保険、社会保険、給与計算等についての知識等を習得する。		
仕上がり像	労働基準法及び就業規則についての知識が習得できる。 労働保険、社会保険の事務手続きができる。 給与計算、年末調整ができる。パソコンを活用した各種文書作成ができる。		
科目	内容		時間
訓練の内容	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方	130H
	総務実務概論	労働基準法、就業規則、文書管理、個人情報保護法	
	社会保険制度概論	健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険の知識、年金制度	
	給与計算概論	給与計算と関連知識、所得税法、年末調整	
	ビジネスマナー概論	ビジネスマナーの基本、正しい言葉遣い、接遇・電話ロールプレイ、苦情処理	
	就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
実技	社会保険手続き実習	健康保険、厚生年金、労働者災害補償保険、雇用保険の届出、保険料徴収と申告	224H
	源泉徴収手続き実務	給与計算、賞与の計算、年末調整と関係業務	
	文書作成実習	ワープロソフト基本操作、表計算ソフト基本操作、バランスシート、勤務表、給与計算書等の実務文書作成	
受験・取得につながる免許・資格等	コンピューターサービス技能評価試験（ワープロ・表計算）、MOUS試験		
主な機器・アプリケーション等	パソコン、ワープロソフト、表計算ソフト		

縫製実務科		訓練期間	就職先の職務
		3ヶ月	アパレル産業における縫製業務
訓練目標	アパレル産業における縫製担当者として、即戦力となる知識・技能等を習得する。		
仕上がり像	縫製用ミシンの基本操作ができる。 アイロンおよび縫製用ミシンの構造、保守、点検ができる。		
科目	内容		時間
訓練の内容	安全衛生	日常の安全点検、避難経路、緊急時の対応、健康管理、災害事例、安全点検の仕方	130H
	アパレル産業概論	アパレル産業の特徴と動向、品質・原価・納期の意義、	
	裁縫知識概論	ミシンの種類、ミシンの構造、アイロンの種類、アイロンの構造、針と糸、基本的デザイン、保守・点検	
	製図概論	製図一般事項、各種被服の製図	
	就職ガイダンス	就職活動、職業選択、履歴書・職務経歴書、面接	
	縫製実習	安全作業法、動作基準、ミシン縫製実習、裁断実習	
実技	衣服作成実習	簡単な衣服作成実習	224H
	製図実習	ワープロソフト基本操作、画像、図表等の文書作成	
受験・取得につながる免許・資格等	洋裁技術検定、和裁検定		
主な機器・アプリケーション等	パソコン、ワープロソフト、ミシン、アイロン		

資料2-2 (別添2 訓練カレンダー)

OAビジネス科 訓練カレンダー(H19.2/1~4/27)

<知識等習得>

月日	曜日	科目	内容	訓練時間	日数
2月1日	木	入校式・オリエンテーション・パソコン基礎実習	入校式・オリエンテーション	マウスの操作	6.0H 1
2月2日	金	パソコン概論・パソコン基礎実習	ハードウェアとソフトウェア	キーボードの操作・入力	6.0H 2
2月3日	土				
2月4日	日				
2月5日	月	パソコン概論・パソコン基礎実習	配線装置について	ファイル保存・入力	6.0H 3
2月6日	火	パソコン概論・パソコン基礎実習	パソコンの周辺機器	複製・挿入・タイピング	6.0H 4
2月7日	水	パソコン概論・パソコン基礎実習	OSについて	複製設定・タイピング	6.0H 5
2月8日	木	パソコン概論・パソコン基礎実習	セキュリティについて	ファイル管理・タイピング	6.0H 6
2月9日	金	安全衛生・安全衛生	安全衛生	安全衛生	6.0H 7
2月10日	土				
2月11日	日				
2月12日	月				
2月13日	火	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	コピーと移動	基本操作実習	6.0H 8
2月14日	水	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	ファイルの整理	基本操作実習	6.0H 9
2月15日	木	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	文書編集	ビジネス文書の編集	6.0H 10
2月16日	金	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	文書編集	ビジネス文書の編集	6.0H 11
2月17日	土				
2月18日	日				
2月19日	月	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	文書編集	ビジネス文書の編集	6.0H 12
2月20日	火	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	形式設定	形式設定の活用	6.0H 13
2月21日	水	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	印刷設定	印刷設定の活用	6.0H 14
2月22日	木	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	挿入	挿入機能・表作成	6.0H 15
2月23日	金	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	挿入	挿入機能・表作成	6.0H 16
2月24日	土				
2月25日	日				
2月26日	月	ワープロソフト実習・就職ガイダンス	表挿入機能・表作成	就職ガイダンス	6.0H 17
2月27日	火	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	表挿入	表挿入機能・表作成	6.0H 18
2月28日	水	ワープロソフト実習・就職ガイダンス	表挿入機能・表作成	就職ガイダンス	6.0H 19
<b>[2月] 訓練時間合計</b>				<b>114.0H</b>	
3月1日	木	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	図形の利用	組図の作成	6.0H 20
3月2日	金	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	図形の作成	組図の作成	6.0H 21
3月3日	土				
3月4日	日				
3月5日	月	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	ワードアートとクリップアート	チラシ作成	6.0H 22
3月6日	火	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	画像の取り込み	画像処理	6.0H 23
3月7日	水	アプリケーション概論・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 24
3月8日	木	ワープロソフト実習・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 25
3月9日	金	ワープロソフト実習・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 26
3月10日	土				
3月11日	日				
3月12日	月				
3月13日	火	ワープロソフト実習・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 27
3月14日	水	ワープロソフト実習・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 28
3月15日	木	ワープロソフト実習・ワープロソフト実習	文書作成総合演習	文書作成総合演習	6.0H 29
3月16日	金	パソコン概論・インターネット実習	インターネットの基礎知識	インターネットの基本操作	6.0H 30
3月17日	土	パソコン概論・インターネット実習	インターネットの基礎知識	ホームページ閲覧	6.0H 31
3月18日	日				
3月19日	月	インターネット実習・インターネット実習	情報収集	セキュリティ対策	6.0H 32
3月20日	火	インターネット実習・インターネット実習	Eメールの基本操作	Web作成	6.0H 33
3月21日	水				
3月22日	木	ビジネスマナー概論・ビジネスマナー概論	社内マナー・接客応対	電話応対・他社訪問	6.0H 34
3月23日	金	ビジネスマナー概論・ビジネスマナー概論	情報収集・FAX	ビジネス敬語ロールプレイ	6.0H 35
3月24日	土				
3月25日	日				
3月26日	月	就職ガイダンス・就職ガイダンス	就職ガイダンス	就職ガイダンス	6.0H 36
3月27日	火	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフトの基本知識	表計算の基本操作	6.0H 37
3月28日	水	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフト計算機能	表計算機能活用演習	6.0H 38
3月29日	木	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフト計算機能	表計算機能活用演習	6.0H 39
3月30日	金	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフト計算機能	表計算機能活用演習	6.0H 40
3月31日	土				
<b>[3月] 訓練時間合計</b>				<b>126.0H</b>	
4月1日	日				
4月2日	月				
4月3日	火	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフト計算機能	表計算機能活用演習	6.0H 41
4月4日	水	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	表計算ソフト計算機能	表計算機能活用演習	6.0H 42
4月5日	木	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	関数	関数の利用	6.0H 43
4月6日	金	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	関数	関数の利用	6.0H 44
4月7日	土	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	関数	関数の利用	6.0H 45
4月8日	日				
4月9日	月	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	グラフ機能	グラフ作成演習	6.0H 46
4月10日	火	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	グラフ機能	グラフ作成演習	6.0H 47
4月11日	水	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	グラフ機能	グラフ作成演習	6.0H 48
4月12日	木	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	データベース機能	データベース活用演習	6.0H 49
4月13日	金	アプリケーション概論・表計算ソフト実習	データベース機能	データベース活用演習	6.0H 50
4月14日	土				
4月15日	日				
4月16日	月				
4月17日	火	就職ガイダンス・就職ガイダンス	就職ガイダンス	就職ガイダンス	6.0H 51
4月18日	水	表計算ソフト実習・表計算ソフト実習	表計算実務総合演習	表計算実務総合演習	6.0H 52
4月19日	木	表計算ソフト実習・表計算ソフト実習	表計算実務総合演習	表計算実務総合演習	6.0H 53
4月20日	金	表計算ソフト実習・表計算ソフト実習	表計算実務総合演習	表計算実務総合演習	6.0H 54
4月21日	土	表計算ソフト実習・表計算ソフト実習	表計算実務総合演習	表計算実務総合演習	6.0H 55
4月22日	日				
4月23日	月	表計算ソフト実習・表計算ソフト実習	表計算実務総合演習	表計算実務総合演習	6.0H 56
4月24日	火	アプリケーション概論・プレゼンテーションソフト実習	プレゼンテーションソフト活用法	PowerPointの基本操作	6.0H 57
4月25日	水	プレゼンテーションソフト実習・プレゼンテーションソフト実習	テーマとシナリオの作成	資料作成	6.0H 58
4月26日	木	プレゼンテーションソフト実習・プレゼンテーションソフト実習	資料作成	リハーサル	6.0H 59
4月27日	金	プレゼンテーションソフト実習・修了式・オリエンテーション	発表と反省	修了式・オリエンテーション	6.0H 60
<b>[4月] 訓練時間合計</b>				<b>120.0H</b>	
<b>総訓練時間(座学)合計</b>				<b>360.0H</b>	



資料2-4 (別添4 ハローワーク担当者用)

資料2-4 (別添4 ハローワーク担当者用)

求職者職業訓練(委託訓練)アンケート調査

○ 調査の目的

この調査は、独立行政法人 雇用・能力開発機構岩手センターが行った平成18年度求職者訓練(委託訓練)の改善事項等についてのご意見等をお聞きし、より効果的な求職者訓練の展開を図ることを目的としています。

1. コース名を標準化し、10科に統一しましたが、どのように思われますか。

該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	良くない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変良い・②良い)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①求職者に対して、訓練内容がわかりやすい説明ができる。 ②訓練の仕上がり像、就職先が明確である。 ③訓練名称によらない訓練ニーズ(求職者ニーズ)が把握できる。 ④その他 [ ]
---

上記の回答で(③あまり良くない・④良くない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①多様な訓練科が設定されていない。 ②訓練科名と内容の差異を感じる。 ③科名が同じなため、事務手続き等が煩雑になる。 ④その他
--

2. 1月末(年度を越える)開始コースを設定、コース開始時期の標準化にしましたが、どのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変良い・②良い)と回答された方は、下記からその理由をお選び下さい。

①求職者が受講したい訓練コースを選択できること。 ①一定時期に、入所、修了等の事務手続きが集中し、煩雑となること。 ②年度を越すコースの事務手続き等が煩雑となること。 ③受講者の確保が困難になることが予測されること。 ④その他 [ ]
---

上記の回答で(③あまり良くない・④良くない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

(裏へつづく)

ハローワーク担当者用

3. 就職活動日の設定のため、土曜日にも訓練日を設定し平日に訓練休を設けましたが、どのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変良い・②良い)と回答された方は、下記からその理由をお選び下さい。

①求職活動するための意識付けができること ②就職活動しやすい環境となること。 ③その他 ( )
---

上記の回答で(③あまり良くない・④良くない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①職業訓練の習得度が低下する可能性があること。 ②訓練希望者が少なくなる可能性があること。 ③その他 ( )
--

4. 職業訓練の総合パンフレットはどのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変解りやすい	解りやすい	あまり解らない	解らない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変解りやすい・②解りやすい)と回答された方は記からその理由をお選び下さい。

①年間計画が一目で理解できる。 ②岩手県の計画等、県内のコースが掲載されている。 ③求職者訓練の概要が掲載されている。 ④その他 ( )
---

上記の回答で(③あまり解らない・④解らない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①訓練コースの詳細が掲載されていない。 ②地図等掲載内容が判りにくい。 ③計画が未定の部分があり、内容があいまいである。 ④その他 ( )
--

5. 岩手県が実施している様式の統一(受講申込書など)についてどのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

6. その他、ご意見・ご要望等がございましたらご記入下さい。

--

以上で終了です。ご協力ありがとうございました

## 資料 2 - 5 (別添 5 委託先用)

### 求職者職業訓練 (委託訓練) アンケート調査

#### ○ 調査の目的

この調査は、独立行政法人 雇用・能力開発機構岩手センターが行っている平成18年度求職者訓練 (委託訓練) についてのご意見等をお聞きし、より効果的な求職者訓練の展開を図ることを目的としています。

- ・ コース名を標準化し、10科に統一しましたが、どのように思われますか。  
該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	良くない
1	2	3	4

上記の回答で (①大変良い・②良い) と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①求職者に対して、訓練内容がわかりやすい説明ができる。 ②訓練の仕上がり像、就職先が明確にできる ③訓練名称によらない訓練ニーズが把握できる ④同じ訓練科を設定した担当者等の情報交換ができる。 ⑤その他 [ ]
---

上記の回答で (③あまり良くない・④良くない) と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①標準化のための実施体制の構築が必要となる。 ②委託先としての独自性が少なくなる。 ③科名が同じなため、事務手続き等が煩雑になる。 ④その他 [ ]
---

2. 1月末 (年度を越える) 開始コースを設定しましたが、どのように思われますか。

該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

上記の回答で (①大変良い・②良い) と回答された方は、下記からその理由をお選び下さい。

①求職者が受講したい訓練コースを選択できることが可能となること。 ②年間を通じた訓練コースの設定ができバランスのとれた訓練計画となること。 ③応募状況等の結果などから訓練ニーズの把握が可能となること。 ④教室の確保等、受け入れ体制が容易となること。 ⑤その他 [ ]
---

上記の回答で (③あまり良くない・④良くない) と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①一定時期に、入所、修了等の事務手続きが集中し、煩雑となること。 ②年度を越すコースの事務手続き等が煩雑となること。 ③受講者の確保が困難になることが予測されること。 ④その他 [ ]
---

(裏へつづく)

2. 就職活動日の設定のため、土曜日にも訓練日を設定し平日に訓練休を設けましたが、どのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変良い・②良い)と回答された方は、下記からその理由をお選び下さい。

①求職活動するための意識付けができること ②就職活動しやすい環境となること。 ③その他 ( )
---

上記の回答で(③あまり良くない・④良くない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①休日勤務等、講師等に負担がかかること。 ②受講生の出席率が悪くなるなどの可能性があること。 ③その他 ( )
---

3. 職業訓練の総合パンフレットはどのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変解りやすい	解りやすい	あまり解らない	解らない
1	2	3	4

上記の回答で(①大変解りやすい・②解りやすい)と回答された方は記からその理由をお選び下さい。

①年間計画が一目で理解できる ②岩手県の計画等、県内のコースが掲載されている。 ③求職者訓練の概要が掲載されている。 ④その他 ( )
--

上記の回答で(③あまり解らない・④解らない)と回答された方は下記からその理由をお選び下さい。

①訓練コースの詳細が掲載されていない。 ②地図等掲載内容が判りにくい。 ③その他 ( )
--

4. 岩手県が実施している様式の統一(受講申込書など)についてどのように思われますか。該当する番号に○印を付けてください。

大変良い	良い	あまり良くない	よくない
1	2	3	4

5. その他、ご意見・ご要望等がございましたらご記入下さい。

--

## 資料 2 - 6 (別添 6 受講生用)

## 求職者職業訓練 (委託訓練) アンケート調査

## 訓練場所 \_\_\_\_\_

## ○ 調査の目的

この調査は、独立行政法人 雇用・能力開発機構岩手センターが行っている平成18年度求職者訓練 (委託訓練) についてのご意見等をお聞きし、より効果的な求職者訓練の展開を図ることを目的としています。

1. 岩手県内で訓練計画をしている、訓練の計画数についてお聞かせください。

該当する番号に○印を付けてください。

多い	適当	少ない
1	2	3

2. コース名を標準化しましたが、標準コース名と訓練内容が合致していましたか。

該当する番号に○印を付けてください。

大変合致している	合致している	少し違う	違う
1	2	3	4

ご意見等がございましたらご記入ください。

3. 就職活動日の設定により、平日に訓練休を設け土曜日に訓練日を設定しましたが、就職活動はできていますか。該当する番号に○印を付けてください。

できている	まあまあできている	あまりできない	できない
1	2	3	4

ご意見等がございましたらご記入ください。

(裏へつづく)

4. 職業訓練の総合パンフレットは解りやすいですか。該当する番号に○印を付けてください。

大変解りやすい	解りやすい	あまり解らない	解らない
1	2	3	4

ご意見等がございましたらご記入ください。

5. その他、職業訓練に関するご意見・ご要望等がございましたらご記入下さい。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました



調査研究報告書 No.137

受講者の能力と個々の訓練ニーズ等に適合することを容易にする訓練システムの研究  
— 離職者を対象とした効果・効率的訓練システムの提言と検証実施事例報告 —

---

発行	2007年3月
発行者	職業能力開発総合大学校 能力開発研究センター 所長 緒方 悟 〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1 電話 (042) 763-9046 (普及促進室)
印刷	株式会社 幸陽 〒229-0014 神奈川県相模原市若松1-23-11 電話 (042) 767-4450

---

ISSN 1340-2412

調査研究報告書 No.137  
2007

**THE INSTITUTE OF RESEARCH AND DEVELOPMENT  
POLYTECHNIC UNIVERSITY**